OLYMPUS

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-755 Ultra Zoom

取扱説明書

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。

製品をご使用になる前に、カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF 」です。

取扱説明書の構成

もくじ

1 準備 23

2 メニューについて 36

3 撮影の基本 46

4 フラッシュ 60

5 撮影の応用 72

6 画像・画質・露出の調整 104

7 再生　121

8 カメラの便利機能　142

9 プリント予約 168

10 ダイレクトプリント 179

11 その他 192

●本書の表記について

	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池やxD ピクチャーカードなどの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。

● **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
● **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● **カードを取り出す際は、飛ばさないように注意する。**カードを押して取り出すときに、すぐに指をはなしたり、指ではじくように押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。
● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
● **AC アダプタのコードを傷つけない**。AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ちこみ、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用•放置しないでください。

● 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

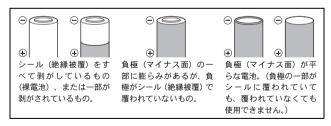
⚠ 警告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
- このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
- 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
- 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
- ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
- 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
- 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。

● このような形状の電池はご使用になれません。

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。）

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
● 液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

● 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
● カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
● 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

● 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
● 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
● 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
● 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
● 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
● アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
● マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
● 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
● ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：0 ～40 ℃
充電：0 ～40 ℃
保存：－20 ～30 ℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。
● 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
● 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
● 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
● 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
● 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には（＋）（－）端子をテープで絶縁してから最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

液晶モニタについて

本製品は背面やビューファインダの表示に液晶モニタを使用しています。

- ビューファインダを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

各部の名称

カメラ

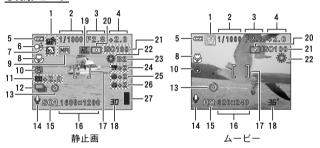
ズームレバー（W/T・Q） P.57, 123, 124
シャッターボタン P.50
モードダイヤル P.46
セルフタイマー／リモコンランプ
リモコン受信窓 P.91, 92
フラッシュ P.60
ホットシュー P.68
OLYMPUS
ストラップ取付部 P.23
録音マイク P.102, 103, 135
スピーカ P.161
レンズ
A/V 出力端子
（A/V OUT（MONO））
P.133
USB 端子
DC 入力端子 P.26
コネクタカバー P.26, 133

ビューファインダ ☞P.18, 34, 50
視度調節ダイヤル ☞P.34
セルフタイマー／リモコンボタン ☞P.91, 92
消去ボタン ☞P.140
マクロ／スポットボタン ☞P.84, 89
プリント予約ボタン ☞P.170
フラッシュレバー ☞P.60
フラッシュモードボタン ☞P.60
プロテクトボタン ☞P.139
AEL／カスタムボタン（AEL／） ☞P.85, 87, 144
回転再生ボタン ☞P.134
カードカバー ☞P.28
カードアクセスランプ ☞P.50
十字ボタン ☞P.36
OK/メニューボタン ☞P.36
液晶モニタボタン（QUICK VIEW） ☞P.50
パワースイッチ ☞P.30
液晶モニタ ☞ P.18, 50
POWER
AEL
OK
QUICK VIEW
OLYMPUS
電池カバー ☞P.24
電池カバーロック ☞P.24
LR6×4
or CR-V3×2
三脚穴

ビューファインダと液晶モニタの表示

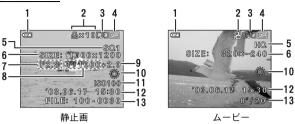
画面に表示される情報量を「情報表示」機能のオン／オフで選択できます。下の画面は「情報表示」の機能をオンにしたときの画面です。☞「情報表示－画像の詳細情報を表示する」(P.155)

●撮影モード

静止画　ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	撮影モード	**P**、**A**、**S**、**M**、、、、、、、、	P.46
2	シャッター速度	16～1/1000	P.74
3	絞り値	F2.8～F8.0	P.73
4	露出補正 露出状態	-2.0～+2.0 -3.0～+3.0	P.110 P.75
5	電池残量	、	P.21
6	緑ランプ	○	P.51
7	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告・ フラッシュ充電	点灯 点滅	P.62
8	マクロ スーパーマクロ マニュアルフォーカス	 S MF	P.89 P.90 P.82
9	ノイズリダクション	NR	P.118

	項目	表示例	参照頁
10	フラッシュモード	、、、SLOW1、SLOW1、SLOW2	P.60
11	フラッシュ補正	-2.0～+2.0	P.67
12	ドライブ	、、HI、AF、BKT	P.94
13	セルフタイマー リモコン		P.91 P.92
14	録音		P.102, 103, 135
15	画質	TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.104
16	画像サイズ	2288×1712、1280×960、640×480、320×240 など	P.106
17	AFターゲットマーク	[ ]	P.50
18	撮影可能枚数 撮影可能秒数	30 36"	P.106 P.55
19	AEロック AEメモリ	AEL MEMO	P.87
20	スポット測光		P.84
21	ISO感度	ISO 50、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.109
22	ホワイトバランス	、、、1、2、3、	P.111
23	WB補正	B1～B7、R1～R7	P.114
24	彩度	RGB-5～+5	P.117
25	シャープネス	S-5～+5	P.115
26	コントラスト	C-5～+5	P.116
27	メモリゲージ	、、、	P.21

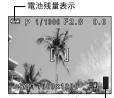
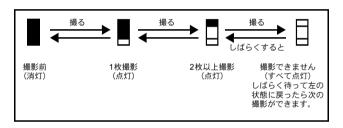
●再生モード

静止画　　ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	P.21
2	プリント予約・枚数 ムービー	凸×10	P.170 P.127
3	録音	[♪]	P.102
4	プロテクト		P.139
5	画質	TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.104
6	画像サイズ	2288×1712、1280×960、640×480、 320×240 など	P.106
7	絞り値	F2.8～F8.0	P.73
8	シャッター速度	16～1/1000	P.74
9	露出補正	-2.0～+2.0	P.110
10	ホワイトバランス	WB AUTO、 、 、 、 、	P.111
11	ISO感度	ISO 50、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.109
12	日時	'03.06.17　15:30	P.32
13	ファイル番号、コマ番号 秒数	FILE : 100 - 0030、30 0"／20"	P.168

注意

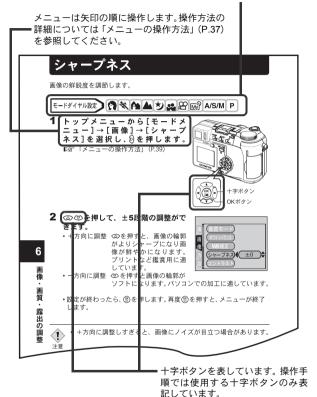
- ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

●メモリゲージについて

静止画の撮影をすると、メモリゲージが点灯します。点灯中は撮影した画像をカードへ記録しています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。ムービーの撮影中は、この表示はありません。

●電池残量表示について

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量表示が以下のように変化します。

本書の見方

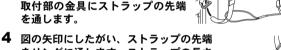
モードダイヤルをここに示されているいずれかのマークに設定します。

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

1 準備

ストラップを取り付ける

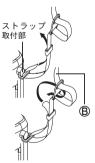
1 **レンズキャップの穴にレンズキャップ用ひもを通し、通したひもの輪にもう一方の先端をくぐらせて引っ張ります。**

2 **ストラップの先端をそれぞれの止め具とリングから外します。**

3 **ストラップの先端（Ⓐ）を、手順1で取り付けたレンズキャップ用ひもに通します。カメラのストラップ取付部の金具にストラップの先端を通します。**

4 **図の矢印にしたがい、ストラップの先端をリングに通します。ストラップの長さを決めます。**

5 **ストラップの先端をさらに矢印のように止め具に通します。ストラップのⒷの部分を引っ張ってゆるみをとり、ストラップが抜けないことを確かめます。**

6 **手順3〜5にしたがって、もう一方の金具にもストラップを取り付けます。**

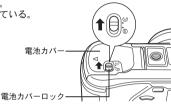
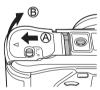
注意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 手順にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

電池はリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個、または単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

重要
- CR-V3は充電式電池ではありません。
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、はがさないでください。
- マンガン電池は使用できません。

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。
- 液晶モニタが消灯している。
- ビューファインダが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 電池カバーロックを ⊖ から ⊘ の方向へスライドします。

3 電池カバーを Ⓐ の方向へスライドさせ、Ⓑ の方向に引き上げます。
- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

4 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。
- 単3形充電式電池をお使いの場合は、電池を充電してから使用してください。

リチウム電池パックの場合

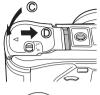
単 3 形電池の場合

単 3 形電池の場合は、カメラ底面に電池挿入方向を示す表示があります。

5 電池カバーで電池を押さえながらⒸの方向に閉じて、Ⓓの方向にスライドさせます。

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- 正しく閉じられると電池カバーは固定されます。

6 電池カバーロックを ⊘ から ⊜ の方向へスライドします。

注意

- 電池を外して約1時間放置すると、初期状態に戻る設定もあります。

電池使用時のご注意

デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池やアルカリ電池などをお使いのときは、電池残量警告（P.21）が表示されずにカメラの電源が切れる場合があります。

別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●リチウム電池パックCR-V3（充電できません）

リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）は寿命が長く、旅行などにも便利です。

●ニッケル水素電池（充電式電池）

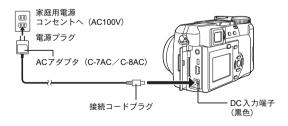
当社製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、繰り返し使用できるので経済的です。
ただし、電池の容量を使いきらずに充電を繰り返すと1回の使用時間が次第に短くなります。

●単3アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。撮影の際はできるだけビューファインダを使用して、液晶モニタはこまめにお切りください。

●ACアダプタ

パソコンへの画像のダウンロード、プリンタへの出力など、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタ（C-7AC／C-8AC）の使用をおすすめします。
専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ずAC100Vでご使用ください。

注意

- 電池を使用してカメラをパソコンやプリンタに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。なお、接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池や AC アダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - フルタイムAFをオンにしている。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。
- 本書の「安全にお使いいただくために」（P.10）および AC アダプタの取扱説明書を必ずお読みください。

カードを入れる

本書では、xD ピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

カードについて

カードは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。

1 準備

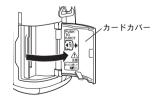
① インデックスエリア
　カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。
② 接触面（コンタクトエリア）
　カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

使用できるカード
- xDピクチャーカード（16～512MB）

注意

- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマット（初期化）したカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「カードのフォーマット」（P.153）

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。
- 液晶モニタが消灯している。
- ビューファインダが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 カードカバーを開けます。

3 図のようにカードの向きを正しく合わせて入れます。

- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードを奥まで差し込むと、カチッという音がしてとまります。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

切り欠き部

インデックスエリア側

- 正しく挿入されると右図の状態になります。

4 カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。

カードを取り出す

1 カードを一度奥に向かって押し込んで、そのままゆっくり戻します。

- カードが手前に出て止まります。カードをつまんで取り出します。

注意

カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

注意

- カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

電源を入れる／切る

1 レンズキャップのつまみを矢印のように押してカメラからレンズキャップを外します。

2 パワースイッチを押します。

- モードダイヤルを▶以外に設定していると、撮影モードで電源が入ります。レンズがせり出してきて、ビューファインダが点灯します。
- モードダイヤルを▶に設定していると、再生モードで電源が入り、液晶モニタが点灯します。

モードダイヤル

3 再度パワースイッチを押すと、電源が切れます。

ヒント

- 電源を入れたまま約3分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。ズームレバーやシャッターボタンなどを操作するとカメラはすぐに動作を再開します。撮影モード（▶以外）では、スリープモードに入るまでの時間を設定できます。☞「スリープ時間－待機状態に入るまでの時間を設定する」（P.158）

注意

- カメラの電源を入れた状態で強い振動や衝撃を与えると、一瞬電源が切れて日付や設定値が初期状態に戻ることがあります。

スタートアップ／シャットダウン画面

電源を入れたり切ったりすると、液晶モニタに画像が表示され、音が再生されます。このときの画像を自分で登録したり、音のオン／オフを選択することができます（P.162）。また、その音量を調整することもできます（P.161）

スタートアップ／
シャットダウン画面（初期設定）

カードが認識されないときは（カードチェック）

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。カードが入っていなかったり、このカメラで使用できないカードが入っているときは、以下の画面が表示されます。

液晶モニタ表示	こうしましょう
[!] カードを認識できません	カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。 → カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット ⚠ すべてのデータが消去されます フォーマット 中止 選択 実行 OK	カードがこのカメラのシステムでは読み込めません。新しいカードに入れ換えるか、カードをフォーマットします。 → 十字ボタンの △▽ を押して［電源オフ］を選択し、OKボタンを押して新しいカードを入れてください。 → カードをフォーマットしてください。 十字ボタンの△▽を押して［フォーマット］を選択し、OKボタンを押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度［フォーマット］を選択してOKを押します。 フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

注意

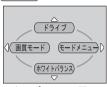
• フォーマット（初期化）するとカード内のすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

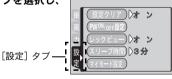
日付・時刻を設定する

1 モードダイヤルをPにして、パワースイッチを押して電源を入れます。

2 ボタンを押します。

• トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンのを押して［モードメニュー］を選択します。

トップメニュー画面

4 を押して［設定］タブを選択し、を押します。

5 を押して［日時設定］を選択し、を押します。

• 選択した項目に緑の枠が移動します。

1

準備

6 (△)(▽)を押して日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、(▷)を押します。

- 年の入力に移動します。
- 以下の手順は"年-月-日"に設定した場合の説明です。

日時設定
2003 . 01 . 01
年 月 日
00 : 00
選択 ◁▷ 設定 △▽ 決定 OK

7 (△)(▽)を押して最初の項目を入力し、(▷)で次の項にすすみます。

- (◁)を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- "年"の上 2 桁は固定されています。

日時設定
2003 . 01 . 01
00 : 00
選択 ◁▷ 設定 △▽ 決定 OK

8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は 24 時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

9 (OK)を押します。

- 0秒の時報に合わせて(OK)を押すと、正確に時間を合わせられます。

10 電源を切るときは、パワースイッチを押します。

注意

- 電池を抜いた状態で約1時間放置すると、日時の設定は解除されます（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。撮影前に、日時の設定が正しいことを確認してください。

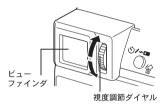
1
準備

ビューファインダを見やすくする

お使いになる方の視力に合わせてビューファインダを見やすく調整します。

1 モードダイヤルを AUTO にして、パワースイッチを押します。

- 電源が入り、ビューファインダが点灯します。

2 ビューファインダをのぞきながら、視度調節ダイヤルを少しずつ回します。

3 AFターゲットマークがはっきり見えるところに視度調節ダイヤルを合わせます。

1
準備

カメラの正しい構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。縦位置で撮影するときは、フラッシュがレンズの中心より上になるようにします。
レンズとフラッシュに指やストラップ、ストラップに取り付けたレンズキャップがかからないよう、ご注意ください。

横位置

縦位置

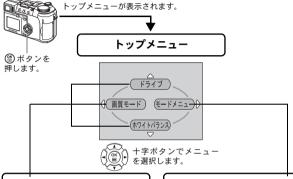
上面図

注意

- シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

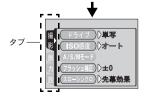
2 メニューについて

メニューの種類

カメラの電源を入れて㊐ボタンを押すと、液晶モニタ（またはビューファインダ）にトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは**P**モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。

ショートカットメニュー

- 直接、各項目の設定画面に進みます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示されます。
- ショートカットメニューに登録した機能をモードメニューからも設定することができます。
- AUTO 🎥 ▶ モード以外ではショートカットメニューを変更することができます。☞「ショートカット設定」（P.147）

モードメニュー

- ISO感度やシャープネスなどいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとにタブで分類されています。
- ⊙⊙ボタンでタブを選択するとそれぞれのタブのメニュー項目が表示されます。
- AUTO モードではモードメニューは表示されません。

メニューの操作方法

1 ㊙を押してトップメニューを表示させ、▷を押します。

2 △▽を押してタブを選択し、▷を押します。

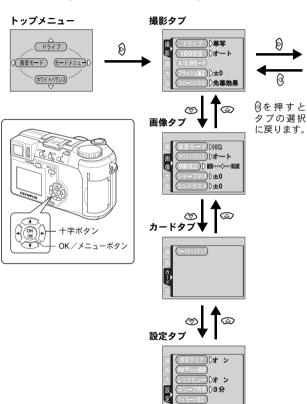
◁を押すとタブの選択に戻ります。

2

メニューについて

次のページへ続く☞

3 ⊜⊝を押して設定する項目を選択し、⊳を押します。

4 ⊜⊝を押して設定を変更します。Ⓞを押すと設定が完了します。
再度Ⓞを押すと、メニューが終了し、撮影できる状態になります。

選択された項目に緑色の枠が移動します。

⊲またはⓄを押すとメニュー項目の選択に戻ります。

注意

- カメラの状態や設定内容などにより、選択できない項目があります。
- 撮影モードではメニューを表示した状態でもシャッターボタンを押すと撮影できます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、「設定クリア」の機能を「オフ」に設定してください。☞「設定クリア－電源を切っても設定を残す」（P.142）

ショートカットメニュー一覧

●撮影モード

AUTO モード

A/S/M P
モード

モード

（初期設定）

ドライブ

撮影方法を［単写］［連写］［高速連写］［AF連写］［BKT］から選択します。	P.94

デジタルズーム

光学ズームの最大倍率からさらに高倍率のズーム撮影が可能です。	P.59

画質モード

撮影する画像の画質や画像サイズを選択します。 静止画　：TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.104

ホワイトバランス

光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.111

日時設定

日付と時刻を設定します。	P.32

カードセットアップ

カードをフォーマットします。	P.153

●再生モード

静止画再生時

ムービー再生時

自動再生

記録されている静止画を連続で表示します。	P.126

ムービープレイ

ムービー再生	ムービーを再生します。	P.127
インデックス作成	撮影したムービーを 9 分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.129
ムービー編集	ムービーの編集を行います。	P.131

情報表示

画像の詳細な撮影情報を表示します。	P.155

ヒストグラム表示

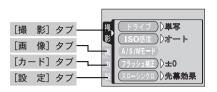
静止画再生時にヒストグラム（輝度分布）を表示します。	P.119

ヒント

- ショートカットメニューに登録した機能をモードメニューからも設定することができます。また、AUTO🎥▶モード以外ではショートカットメニューを変更することができます。☞「ショートカット設定」（P.147）

モードメニュー一覧

モードメニューの中はタブに分けられています。⊗⊗ボタンを押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

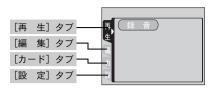
●撮影モード

［撮　影］タブ		
ドライブ	撮影方法を［単写］［連写］［高速連写］［AF連写］［BKT］から選択します。	P.94
ISO感度	ISO感度を［オート］［50］［100］［200］［400］から選択します。	P.109
A/S/Mモード	撮影モードをA（絞り優先撮影）、S（シャッター優先撮影）、M（マニュアル撮影）から選択します。	P.72
My1/2/3/4	Myモード撮影時に使用するマイモードを選択します。	P.76
フラッシュ補正	フラッシュの発光量を調整します。	P.67
スローシンクロ	フラッシュモードをスローシンクロに設定したときの効果を［先幕効果］［赤目･先幕効果］［後幕効果］から選びます。	P.66
ノイズリダクション	長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。	P.118
マルチ測光	被写体の数ヶ所（最大8ヶ所）を測光し、その平均値から最適な露出を決定します。	P.85
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（最大約40倍）のズーム撮影が可能です。	P.59
フルタイムAF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。	P.78

AF方式	オートフォーカスの方式を［iESP］［スポット］から選択します。	P.77
スーパーマクロ	被写体に3cmまで近づいて撮影できます。	P.90
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.97
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.99
ファンクション撮影	［モノクロ］［セピア］［白板］［黒板］の特殊効果をつけた撮影をします。	P.101
AFターゲット選択	AFターゲットマークの位置を十字ボタンで選択します。	P.79
撮影情報表示	撮影時に表示されるシャッター速度やホワイトバランスなどの情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P.155
ヒストグラム表示	画像のヒストグラム（輝度分布）を表示します。	P.119
スチル録音	静止画撮影時に音声を録音します。	P.102
ムービー録音	ムービー撮影時に音声を録音するかどうか選択します。	P.103
スーパーズーム	1600×1200の画質モードで光学ズームの倍率を最大14倍まで上げることができます。	P.58

［画　像］タブ		
画質モード	撮影する画像の画質や画像サイズを選択します。 静止画　：TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー　：HQ、 SQ	P.104
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.111
WB補正	ホワイトバランスを微調整します。	P.114
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P.115
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P.116
彩度	色合いを変化させずに色の濃さを調節します。	P.117

［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.153

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源を切ったときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.142
PW ON/OFF設定	電源を入れたり切ったりしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ／シャットダウン画面や音を選択します。	P.162
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示することができます。	P.157
スリープ時間	カメラがスリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。	P.158
マイモード設定	MYモードで撮影するときの設定を登録します。	P.150
ファイル名メモリー	ファイル名のつけかたを変更します。	P.164
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックを行います。	P.165
モニタ調整	液晶モニタとビューファインダの明るさを調整します。	P.156
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.32
m／ft設定	マニュアルフォーカス時に表示される距離の単位をメートル、またはフィートに切り換えます。	P.166
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって異なります。	P.167
ショートカット設定	お好みの機能をショートカットメニューに登録します。	P.147
カスタムボタン設定	お好みの機能をカスタムボタンに登録します。	P.144
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.159
シャッタ音	シャッターボタンを押すときの音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.160

●再生モード

［再　生］タブ※1		
録音	撮影した静止画に音声を記録します。	P.135

※1［再生］タブはムービー再生時は表示されません。

［編　集］タブ※2		
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくして、別の画像として保存します。	P.136
トリミング	撮影した画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。	P.137

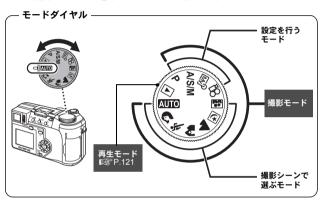
※2［編集］タブはムービー再生時は表示されません。

［カード］タブ		
カードセットアップ	カード内のすべての画像の消去やカードのフォーマットをします。	P.141, 153

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源を切ったときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.142
PW ON/OFF設定	電源を入れたり切ったりしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ／シャットダウン画面や音を選択します。	P.162
画面登録	スタートアップ画面やシャットダウン画面に自分で撮影した画像を使用できるように登録します。	P.163
モニタ調整	液晶モニタとビューファインダの明るさを調整します。	P.156
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.32

ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって異なります。	P.167
インデックス表示	インデックス再生時に、液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P.125
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.159
再生音量	再生時の音量を調節します。「PW ON/OFF設定」で選択した音の音量も調節されます。	P.161

撮影モードについて

撮影モードには、モードダイヤルを合わせるだけで撮影シーンに適した設定が用意されているモードと、撮影状況や表現したい内容に合わせて設定を行うモードがあります。
モード変更はカメラの電源が入っている状態でも行えます。

撮影シーンで選ぶモード

AUTO フルオート撮影

静止画を撮影します。特別な機能や各種の設定は必要ありません。ピント合わせや明るさ調整などは、カメラが最適なものにします。最も簡単な撮影方法です。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

スポーツ撮影

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

記念写真撮影

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。空・緑・人物をきれいに撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

風景撮影

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

夜景撮影

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも遅いシャッター速度で撮影します。AUTOモードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

セルフポートレート撮影

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

設定を行うモード

Pプログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュモードやドライブなどのその他の機能は、自由に設定できます。

A/S/M絞り優先／シャッター優先／マニュアル撮影

モードダイヤルを**A/S/M**にセットすると、以下の撮影モードから選択して撮影できます。モードの設定方法は「A/S/Mモードの設定」(P.72) を参照ください。

A絞り優先撮影

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。
☞「絞り優先撮影」(P.73)

絞り値（F値）を小さくする

絞り値（F値）を大きくする

Sシャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値はカメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。
☞「シャッター優先撮影」(P.74)

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

Mマニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出状態表示で確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。
☞「マニュアル撮影」(P.75)

マイモード撮影

撮影に関する各種機能を設定し、マイモードとして登録しておくと、オリジナルのモードで撮影することができます。現在使用している設定をこのモードで呼び出せるように登録することもできます。☞「マイモード設定－マイモードに機能を登録する」(P.150)
☞「マイモード撮影」(P.76)

ムービー撮影

ムービー（動画）を撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。「ムービー録音」がオンに設定されていると、音声も同時に記録できます。
☞「ムービーを撮る」(P.55)

注意

- モードによって設定可能な機能は異なります。☞「撮影モード別の設定可能な機能」(P.210)

静止画を撮る

ビューファインダを見て撮る方法と、液晶モニタを見て撮る方法があります。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 モードダイヤルを AUTO A/S/M P のいずれかにして、パワースイッチを押します。

「電源を入れる／切る」（P.30）

• ビューファインダが点灯します。

液晶モニタを見て撮影するときは、を押して、液晶モニタを点灯させます。

2 構図を決めます。

3 シャッターボタンを軽く押して（半押し）、ピントを合わせます。

ϟ マーク

緑ランプ

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。（フォーカスロック）
- ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。
- カメラが自動的に決めたシャッター速度や絞り値が表示されます(Mモード以外)。
- ϟ が点滅したときは、手ぶれ警告です。フラッシュレバーを押し上げて、フラッシュを起こしてください。(P.60)
- フラッシュを起こしたときに ϟ が点灯した場合は、フラッシュ発光予告です。シャッターボタンを全押しすると、フラッシュが自動的に発光します。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

ヒント

ねらった被写体にピントが合わない

☞「ピントが合わないときは」(P.53)

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。広角側で7cm以上離れて撮影してください（望遠側のとき：1.2m）。スーパーマクロモードに設定すると、約3cmまで近づいて撮影できます。☞「スーパーマクロ撮影－至近距離で撮る」(P.90)

→ 被写体の条件によってはピントや露出が固定されないことがあります。☞「オートフォーカス（AF）が苦手な被写体」(P.54)

シャッターボタンを半押ししたときに、ϟ が点滅している

→ フラッシュ充電中です。一度シャッターボタンから指をはなして、消灯するまでお待ちください。

撮影した画像をすぐに確認したい

→「レックビュー」を「オン」にします。☞「レックビュー－撮影後すぐに画像を確認する」(P.157)

撮影時の音声を録音したい

→ 静止画撮影時、音声が録音できます。「スチル録音」を「オン」に設定してください。☞「スチル録音」(P.102)。また、撮影後の画像に後から音声メモを録音することもできます。☞「音声の録音」(P.135)

ビューファインダや液晶モニタが消灯した

→ 3分以上何も操作をしないと、ビューファインダや液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。☞「スリープ時間－待機状態に入るまでの時間を設定する」(P.158)

ビューファインダや液晶モニタの明るさを調整したい

→「モニタ調整」で設定します。☞「モニタ調整－液晶モニタとビューファインダの明るさを調整する」(P.156)

ビューファインダや液晶モニタが見にくい

→ 晴天下のように明るい場所では、ビューファインダや液晶モニタの画像に縦スジ（スミア）が入ることがありますが、撮影画像への影響はありません。

ピントの合っている範囲を確認したい

→ シャッターボタンを半押ししているときに[⊡]を押すと、ピントの合っている範囲が拡大表示されます。もう一度[⊡]を押すと、元に戻ります。デジタルズーム領域では拡大できません。☞「デジタルズームを使う」(P.59)

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、ぶれる原因になります。
- 電源を切ったり、電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やACアダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつくことがあります。

ピントが合わないときは

ねらった被写体にピントが合わないときは以下の方法でピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

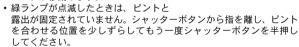
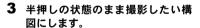
1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

2 シャッターボタンを緑ランプが点灯するまで半押しします。

シャッターボタン

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

3 半押しの状態のまま撮影したい構図にします。

4 シャッターボタンを押し込みます（全押し）。

ヒント

ピント合わせをする構図と露出を合わせたい構図が異なる
☞「AEロック撮影－露出を固定する」（P.87）

ピントだけを固定する
☞「AFロック撮影－ピントを固定する」（P.80）

ピントを画面中央で合わせたい
☞「AF方式－ピント合わせの範囲を変える」（P.77）

オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。
いずれの方法でもピントが合わない場合は、マニュアルフォーカスを使用してください。☞「マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる」（P.82）

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

ムービーを撮る

ムービー（動画）を撮影します。「ムービー録音」がオンに設定されていると、音声も同時に記録できます。

モードダイヤル設定

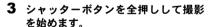
1 モードダイヤルを 🎥 にして、パワースイッチを押します。

☞「電源を入れる／切る」（P.30）

- ビューファインダが点灯します。
- 使用しているカードで記録できる撮影可能秒数が表示されます。

2 構図を決めます。

- ズームレバーで被写体を拡大できます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- 撮影中もズーム操作ができます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。
- ムービー撮影中は🎥マークが赤く点灯します。

撮影可能秒数

4 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- 撮影可能秒数が0になると、自動的に撮影を終了します。
- カードに空き容量がある場合は、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。☞「ムービー画質モード」（P.106）

注意

- 撮影中、カードの状態によっては、撮影可能秒数が急激に減ることがあります。この場合は、カードをフォーマットしてから使用してください。☞「カードのフォーマット」（P.153）
- ムービー録音がオンに設定されているときは、撮影中に光学ズームの倍率は変更できません。撮影中にズームするには「デジタルズーム」を「オン」に設定してください。☞「デジタルズームを使う」（P.59）
- 🎥モードでは、フラッシュ、MF（マニュアルフォーカス）は使用できません。

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

- 撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、カードの空き容量がなくなるまで撮影は続きます。
- 長時間撮影したムービーは編集できません。（P.129）
- 一度のムービー撮影でカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、カードに空きを作ってください。

拡大して撮る

光学ズームのほかに、このカメラではスーパーズームとデジタルズームを使用して望遠や広角撮影ができます。スーパーズームおよびデジタルズームは光学ズームと組み合わせて使用します。スーパーズームとデジタルズームを同時に使用することはできません。
高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

それぞれのズームの特徴と最大倍率は以下の通りです。

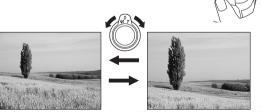
光学ズーム　通常のズーム撮影をします。
最大倍率：10倍（35mmカメラ換算：38mm～380mm）

スーパーズーム　光学ズームの最大倍率を14倍まで上げることができます。ただし、画質は1600×1200に自動的に固定されます。
最大倍率：14倍

デジタルズーム　光学ズームの最大倍率からさらに高倍率のズーム撮影ができます。ただし、デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなることがあります。
最大倍率：約40倍相当
（ムービー撮影時のデジタルズーム倍率：2.5倍）

光学ズームを使う

モードダイヤル設定　AUTO　A/S/M　P

1 ズームレバーを回します。

ズームレバー

広角：ズームレバーをW側に回す　　望遠：ズームレバーをT側に回す

スーパーズームを使う

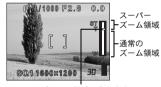
モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スーパーズーム］→［オン］を選択し、㊙を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- ［オン］を選択すると、画質モードは自動的に1600×1200になります。
- 再度㊙を押すと、メニューが終了します。

2 ズームレバーをT側に回して、光学ズームの最大倍率までズームアップします。

- 10倍までズームアップしたところで一度ズーム動作が止まります。そのまま、ズームレバーをT側に回し続けると、再びズームアップし始めます。

スーパーズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

3 ズームを広角に戻すには、ズームレバーをW側に回します。

- 10倍まで倍率が戻ったところで一度ズーム動作が止まります。そのまま、ズームレバーをW側に回し続けると、再びズームが広角に戻り始めます。

注意

- デジタルズームをオンにしたり、画質モードの設定を変更すると、スーパーズームは自動的にオフになります。

デジタルズームを使う

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［デジタルズーム］→［オン］を選択し、OKを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度OKを押すと、メニューが終了します。

モードダイヤル設定

トップメニューから［デジタルズーム］→［オン］を選択し、OKを押します。

2 ズームレバーをT側に回します。

• ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。

ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。
デジタルズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

注意

• デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。

4 フラッシュ

フラッシュ撮影

撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。フラッシュの発光量を補正することもできます。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 フラッシュレバーを押し上げます。(①)

- フラッシュが起き上がります。(②)

2 (フラッシュモード)ボタンを繰り返し押して、フラッシュを設定します。

- フラッシュモードは以下のように切り換わります。(全モード設定可能の場合)

- 何も操作しないで約3秒経過すると、設定が確定し、モード選択表示は自動的に消えます。
- 発光禁止にするには、フラッシュの上部を指で押し下げて、フラッシュを収納します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光条件のときは、⚡ マークが点灯します。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

フラッシュの到達距離

広角時：約0.3～4.5m
望遠時：約1.2～3.5m

モードによる機能制限

モード / フラッシュモード	AUTO	(シーンモード)	My*	A/S/M A	A/S/M S	A/S/M M	P
オート発光	○	○	○	○	−		○
赤目軽減発光	○	○	○	○	−		○
⚡強制発光	−	○	○	○	−		○
先幕効果	−	○	○	○	○		○
後幕効果	−	○	○	○	○		○
赤目・先幕効果	−	○	○	○	−		○
発光禁止	○	○	○	○			○

○：設定可、－：設定不可、□：初期設定

＊ 初期設定と設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。

4 フラッシュ

ヒント

ϟ（フラッシュ充電中）マークが点滅した

→ フラッシュ充電中です。ϟマークが消灯するまでお待ちください。

フラッシュ自動発光時（オート発光・赤目軽減・強制発光）のシャッター速度について

→ ϟマークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度は手ぶれが起きにくい秒時に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
広角側	1/30秒
望遠側	1/320秒

注意

- 以下の場合、フラッシュは使用できません。
  ムービー撮影モード／オートブラケット撮影／スーパーマクロ撮影／ファンクション撮影の白板・黒板モード／パノラマ撮影
- マクロ撮影でズームがW（広角）側にあるときは特に、画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。
- コンバージョンレンズ使用時にはフラッシュを使用しないでください。

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

●赤目軽減（◎）

人物をフラッシュ撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

●発光禁止（）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、手ぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

●スローシンクロ（⚡SLOW1 ⚡SLOW2 👁⚡SLOW1）

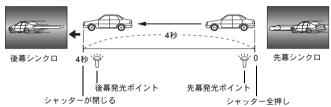
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると背景を写し込むことができ、被写体と背景の両方を撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕効果（先幕シンクロ） ⚡SLOW1

フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。スローシンクロの初期設定は「先幕効果」です。

後幕効果（後幕シンクロ） ⚡SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。
シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。
Mモード　　　　：16秒
P、A、S、🌃モード：4秒

シャッター速度が 4 秒のとき

赤目・先幕効果　👁⚡SLOW1

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

スローシンクロの設定

モードダイヤル設定 [ポートレート] [スポーツ] [ポートレート+風景] [風景] [夜景] [集合写真] [My] A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スローシンクロ］→［先幕効果］［赤目・先幕効果］［後幕効果］から選択し、ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度ⓞを押すと、メニューが終了します。

4

フラッシュ

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗差）を意図的につけたいときにもこの機能が便利です。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［フラッシュ補正］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して調整し、OKを押します。

△：1/3EVずつ発光量が増えます。
（EV：補正値の単位）
▽：1/3EVずつ発光量が減少します。

• 再度OKを押すと、メニューが終了します。

注意

• シャッター速度が速い場合は、フラッシュ補正の効果が十分に得られないことがあります。

4 フラッシュ

外部フラッシュ（別売）

専用外部フラッシュを使って撮る

専用外部フラッシュ（オリンパスFLシリーズ）で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュを使うと、カメラのフラッシュモードと露出設定を自動的に検出するなど、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。内蔵フラッシュと外部フラッシュを併用することはできません。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 ホットシューカバーを矢印の向きにスライドさせて外します。専用外部フラッシュを取り付けます。

- 専用外部フラッシュの取り付け方は、専用外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。
- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外したあとは、もう一度取り付けてください。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。

- FL-20の場合は、「TTL-AUTO」にモードダイヤルを設定します。
- FL-40 の場合は、カメラと通信をして自動的に「TTL-AUTO」に設定されます。通信を続けている間はFL-40 に、常に「TTL-AUTO」と表示されます。
- フラッシュの電源は必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4

フラッシュ

3 ϟ（フラッシュモード）ボタンを押して、フラッシュモードを選択します。

☞「フラッシュ撮影」（P.60）

注意

• 近距離撮影時は露出オーバー（明るすぎ）になることがありますので、その際は内蔵フラッシュを使用してください。

市販の外部フラッシュを使って撮る

市販の外部フラッシュは、ホットシューに接続できるものであれば、使うことができます。使用できる市販の外部フラッシュについては次頁をご覧ください。（オリンパスFLシリーズ以外の市販の外部フラッシュは、カメラから発光量の調整をすることはできません。）

モードダイヤル設定 **A/S/M**

1 外部フラッシュをホットシューに取り付けてカメラと接続します。

- 外部フラッシュの取り付け方は、外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

2 M モードに設定します。シャッター速度と絞り値を設定します。

☞「マニュアル撮影」（P.75）

- シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますのでご注意ください。また、フラッシュの効果を出すために、シャッター速度は1/200～1/300の間に設定されることをおすすめします。

3 外部フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの電源は必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISOと絞り値をカメラのISOと絞り値に合わせます。

- 外部フラッシュ側のモードの選択方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- お使いになる外部フラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認の上、ご使用ください。

使用できる市販外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください。

(1) 市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせください。
(2) 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談ください。
(3) 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせせることのできる製品をお使いください。
(4) 外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正はできません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）
(5) 照射角度は35mmフィルム換算で、38mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。
(6) フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。
(7) **オリンパスFLシリーズ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。**

A/S/Mモードの設定

A/S/M

モードダイヤルを **A/S/M** にセットしたときに使用する撮影モードを設定します。

モードダイヤル設定 A/S/M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［A/S/M モード］→［A］［S］［M］から選択し、㊞を押します。

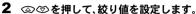
☞「「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度㊞を押すと、メニューが終了します。

絞り優先撮影

1 Aモードに設定します。

☞「A/S/Mモードの設定」（P.72）

2 ⊜⊝を押して、絞り値を設定します。

⊜：絞りが絞られ（絞り値が大きくなり）ます。
⊝：絞りが開き（絞り値が小さくなり）ます。

絞り値が赤く表示された場合は適正露出が得られません。以下のように対応してください。（適正露出のときは緑で表示されます。）

▲が表示されるとき…露出オーバー
⊜を押して、絞り値を大きくします。

▼が表示されるとき…露出アンダー
⊝を押して、絞り値を小さくします。

設定範囲　W側：F2.8〜F8.0
　　　　　T側 ：F3.7〜F8.0

- フラッシュがオート発光に設定されているとき、シャッター速度は、ズームの設定がもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/320秒よりも低速にはなりません。

シャッター優先撮影 S

モードダイヤル設定 A/S/M

1 Sモードに設定します。

☞「A/S/Mモードの設定」（P.72）

2 △▽を押して、シャッター速度を設定します。

△ ：シャッター速度が速くなります。
▽ ：シャッター速度が遅くなります。

シャッター速度が赤く表示された場合は適正露出が得られません。以下のように対応してください。（適正露出のときは緑で表示されます。）

シャッター速度

S 1/50 F8.0 0.0
ISO100
SLOW1
SQ1 1600×1200 30

▲が表示されるとき…露出オーバー
△を押して、シャッター速度を速くします。

▼が表示されるとき…露出アンダー
▽を押して、シャッター速度を遅くします。

設定範囲：1～1/1000（秒）

注意

• シャッター速度の設定範囲はフラッシュの設定により変わります。

マニュアル撮影 M

モードダイヤル設定 A/S/M

1 Mモードに設定します。

☞「A/S/Mモードの設定」（P.72）

AEL／ボタン 十字ボタン

2 十字ボタンを押して絞り値とシャッター速度を設定します。

◁ ：絞り値が大きくなります。
▷ ：絞り値が小さくなります。
△ ：シャッター速度が速くなります。
▽ ：シャッター速度が遅くなります。

- シャッターボタンを半押しすると、設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が－3.0～＋3.0EVの範囲で、表示されます。
- 露出状態表示が赤く表示されたときは、露出差が-3.0EVよりも小さい、または+3.0EVよりも大きいことを示しています。
- **AEL／**（AE ロック／カスタム）ボタンを押すと、右図のような露出状態を示すバーが表示されます。

露出状態表示

絞り値　　　　　：F2.8～F8.0（W側）
　　　　　　　　　F3.7～F8.0（T側）
シャッター速度：16～1/1000（秒）

注意

- シャッター速度を遅く設定して撮影するときは、カメラぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

マイモード撮影

Mymモードは、メニューのマイモード設定で登録した設定で撮影します。あらかじめ、使用する撮影モードや機能の設定をマイモードとして登録しておくことで、お好みの撮影がすばやくできます。また、現在使用している設定を登録することもできます。Myモードは4種類のパターンが登録可能です。☞「マイモード設定－マイモードに機能を登録する」(P.150)

モードダイヤル設定

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［マイモード選択］→［マイモード1］～［マイモード4］から選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.37)

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。
- ［マイモード 1］のみ、あらかじめ設定値が登録されています。［マイモード2］～［マイモード4］は設定値を登録しないと選択できません。
☞「マイモード設定－マイモードに機能を登録する」(P.150)

注意

- 「現設定」で設定を登録したときに、ズームの位置がずれる場合があります。

ピント合わせの応用

AF方式−ピント合わせの範囲を変える

被写体の焦点を合わせる方式を選択します。

iESP　被写体が中央にない場合にもピントを合わせます。ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。
スポット　AFターゲットマーク内の被写体にピントを合わせます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［AF方式］→［iESP］または［スポット］から選択し、OKを押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

- 再度OKを押すと、メニューが終了します。

注意

- AUTO、ムービーモードでは、AF方式はiESPに固定されています。設定は変更できません。

フルタイムAF－ピント合わせの時間を短くする

シャッターボタンを半押ししなくても、ピント合わせの動作を繰り返します。「オン」に設定すると、ピント合わせの時間が短縮され、シャッターチャンスを逃すことなく撮影できます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［フルタイムAF］→［オン］を選択し、㊐を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度㊐を押すと、メニューが終了します。

注意

• フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。

AFターゲット選択ー AFターゲットマークの位置を変える

AFターゲットマークの位置を移動させて、ピント合わせをするエリアを選択します。

1 **AF方式を［スポット］に設定します。**
☞「AF方式－ピント合わせの範囲を変える」（P.77）

2 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［AFターゲット選択］を選択し、Ⓓを押します。**

3 **十字ボタンを押して、AFターゲットマークをピントを合わせたいエリアに移動させます。**
- AFターゲットマークは、画面中央から十字方向に移動できます。

4 **撮影します。**
- AFターゲットマークの位置を元（中央）に戻すには、Ⓞを押します。
- 再度Ⓞを押すとAFターゲットマーク選択のモードから抜けます。

- スーパーズーム、またはデジタルズームがオンのときは、AF ターゲット選択はできません。
- AF ターゲットマークを移動した状態で記憶させておくことはできません。

AFロック撮影－ピントを固定する

ピント位置を簡単に固定したいときにあらかじめ**AEL/**ボタンにAFロックの機能を登録しておきます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 AEL/ボタンにAFロックの機能を登録します。

「カスタムボタンに機能を登録する」（P.145）

AEL/ボタン

2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、AEL/（AEロック／カスタム）ボタンを押します。

- ピントが固定され、AFロックマークが表示されます。
- AFロックをやり直したいときは、再度**AEL/**ボタンを押してAFロックを解除します。**AEL/**ボタンを押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。

AEL/ ボタンを押したとき

ロックされたとき

AFロックマーク

3 シャッターボタンを全押しします。

ヒント

ロックしたピントを撮影後も記憶させたい（AFメモリ）

→ **AEL/**ボタンを1秒以上押すと、AFメモリマークが表示されます。AFメモリマークが表示されている間、ピントは固定されています。AFメモリを解除するには、再度**AEL/**ボタンを押します。

AFロックをしたのに、解除されてしまった

→ AFロックした後で、ボタンやモードダイヤルを操作しないでください。AFロックが解除されます。

→ スリープモードから復帰したときや、電源を一度切ったときは、AFロックが解除されます。

注意

- AFロック後にズーム操作をするとピントがずれる場合があります。ズーム操作をした後にAFロックを行ってください。
- メニューが表示されているときは、AFロックできません。メニューを終了してください。☞「メニューの操作方法」（P.37）

マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる

オートフォーカスでピント合わせがうまくいかないときは、手動でのピント合わせが可能です。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 OKを1秒以上押し続けます。

2 液晶モニタに距離表示が表示されたら、◁を押してMFを選択します。

MF◀AF

3 △▽を押して、ピント位置を設定します。

- 操作中はピントを合わせている範囲が拡大表示されます。ピントを合わせている位置が正しいかどうか、確認してください。
- 液晶モニタの左側の距離表示は、目安です。
- 2m 以下にカーソルを移動させると、自動的に目盛りが7cm～2mになります。

4 OKを1秒以上押して、ピント位置を決定します。

- 画面に赤くMFと表示されます。

5 撮影します。

- ピントは設定した距離で固定されます。

●マニュアルフォーカスを解除するには

1 ㊍を1秒以上押して、距離表示を表示させます。

2 ▷を押してAFを選択し、㊍を押します。

- マニュアルフォーカスが解除されます。

ヒント

ピント位置を固定しておきたい

→フォーカスロックした位置で、ピント位置を固定させます。
1 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。
2 シャッターボタンを半押しした状態で㊍を押します。
- 距離表示が表示されます。
- MFに設定され、フォーカスロックをした位置でピント位置が固定されます。

距離表示の一番上にカーソルを合わせても、ピントが∞(無限位置)に合わない

→液晶モニタを見ながら△▽を押して、カーソルの位置を少しずつ調整してください。

注意

- 撮影距離を設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、ピント位置を設定してください。

測光

側光の方式には、以下の3通りの方法があります。

デジタルESP測光 画面の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を決定します。
スポット測光 AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。
マルチ測光 被写体の数カ所（最大8カ所）を測光し、その平均値から最適な露出を決定します。明暗の差の大きい被写体など、適正露出がでにくい場合に有効です。
☞ P.85

スポット測光ー中央部の明るさを優先して撮る [•]

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 🌷/[•]（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押して、［スポット］または［スポット・マクロ］に設定します。

- 何も操作しないで約3秒経過すると、設定が確定し、モード選択表示は自動的に消えます。
- マニュアルフォーカスに設定しているときは［スポット・マクロ］は選択できません。☞「マニュアルフォーカスー手動でピントを合わせる」（P.82）

🌷/[•]ボタン

5 撮影の応用

マルチ測光－被写体の明るさを複数箇所測る

モードダイヤル設定 A/S/M P

1　A/S/M モードにセットしている場合は、Mモードではマルチ測光はできません。M以外の撮影モードにセットしてください。

☞「A/S/Mモードの設定」（P.72）

- **AEL／**ボタンにAEロック以外の機能を登録しているときは、AEロックの機能を登録しなおしてください。
☞「カスタムボタンに機能を登録する」（P.145）

／ボタン
AEL／ボタン
十字ボタン
OKボタン

2　／ボタンを繰り返し押して、［スポット］に設定します。

☞「スポット測光－中央部の明るさを優先して撮る」（P.84）

3　トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［マルチ測光］→［オン］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 再度を押すと、メニューが終了します。

4　測光したいところに AF ターゲットマークを合わせて、AEL／（AEロック／カスタム）ボタンを押します。最大8カ所まで測光を繰り返します。

- マルチ測光バーが表示されます。
- 9回目以降の操作は無効です。
- 測光をやり直すには、**AEL／**ボタンを1秒以上押して MEMO と表示させます。再度**AEL／**ボタンを押すと、測光値は取り消されます。

例：2つのポイントを測光した場合（**AEL/**☑ボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（**AEL/**☑ボタンを押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

AEL/☑ボタンを押したポイントの測光値。◇の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央からはなれた位置に◇が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◇が±3以上はなれると、◁▷が赤く表示されます。

ヒント

マルチ測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→ 手順4で測光した後に、**AEL/**☑ボタンを1秒以上押します。MEMOと表示されます。MEMOが表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度**AEL/**☑ボタンを押します。

測光値が取り消されてしまった

→ 手順4で測光した後に、ボタンやモードダイヤルを操作すると、マルチ測光値が取り消されます。

AEロック撮影－露出を固定する AEL

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。
例えば、空が構図の広い範囲を占めていると被写体が暗くなってしまうことがあります。この場合、空を外した構図の状態で**AEL/**ボタンを押して測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。次に、空を入れた構図に戻して撮影をします。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 A/S/Mモードにセットしている場合、Mモードではロックはできません。M以外の撮影モードにセットしてください。

☞「A/S/Mモードの設定」（P.72）

- **AEL/**ボタンにAEロック以外の機能を登録しているときは、AEロックの機能を登録し直してください。
☞「カスタムボタンに機能を登録する」（P.145）

AEL/ボタン

2 測光値をロックしたい構図にして、AEL/（AEロック／カスタム）ボタンを押します。

- 測光値が記憶されます。
- AEロックをやり直したいときは、再度**AEL/**ボタンを押してAEロックを解除します。**AEL/**ボタンを押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。

5 撮影の応用

3 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。
- シャッターボタンを半押しした状態では、AEロックの解除はできません。

AEロック中はAELと表示されます。

4 シャッターボタンを全押しします。

- AE ロックは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

ヒント

ロックした測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→手順2でAEロックした後、または手順3でシャッターボタンを半押しした後に、**AEL/**ボタンを1秒以上押します。MEMOと表示されます。MEMOが表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度**AEL/**ボタンを押します。

AEロックをしたのに、解除されてしまった

→AEロックした後で、ボタンやモードダイヤルを操作しないでください。AEロックが解除されます。

→スリープモードから復帰したときや、電源を一度切ったときは、AEロックが解除されます。

注意

- マルチ測光が設定されているときは、AE ロックできません。マルチ測光をオフに設定してください。☞「マルチ測光－被写体の明るさを複数箇所測る」（P.85）
- メニューが表示されているときは、AEロックできません。メニューを終了してください。☞「メニューの操作方法」（P.37）

マクロ撮影－近くのものを撮る 🌷

通常の撮影では、近接した被写体（広角側：7～60cm、望遠側：1.2～2m）にピントを合わせるのに時間がかかりますが、🌷（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くなります。🌷モードでは、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます（光学ズームをもっとも広角にして、7cmまで近づいて撮影した場合）。
被写体をクローズアップするときに、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体を適正露光で撮影すると、きれいな画像が撮れます（スポット測光＋マクロモード）。（P.84）

通常撮影

マクロ撮影

モードダイヤル設定　AUTO　A/S/M　P

1 🌷/⊡（スポット／マクロ）ボタンを繰り返し押して、［マクロ］または［スポット・マクロ］に設定します。

- 表示されたモードに設定されます。
- 何も操作しないで 3 秒経過すると表示は自動的に消えます。
- マニュアルフォーカスに設定しているときはマクロモードに設定することはできません。
  オートフォーカスに設定してください。
  ☞「マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる」（P.82）

🌷/⊡ボタン

P 1/1000 F2.8 0.0
🌷 マクロ
SQ1 1600×1200 30

5
撮影の応用

スーパーマクロ撮影－至近距離で撮る

被写体に約3cmまで接近して撮影できます。約4×3cmの被写体をフレームいっぱい撮影できます。
スーパーマクロは通常の撮影距離にも対応しますが、ズーム位置は固定され、使用できません。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スーパーマクロ］→［オン］を選択し、OKを押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

- 再度OKを押すと、メニューが終了します。

ヒント

被写体が影になってしまう

→被写体に近づいて撮影する場合、被写体が影になりやすく、オートフォーカスではピントが合いにくくなることがあります。この場合は、マニュアルフォーカスで撮影してください。「マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる」（P.82）

注意

- スーパーマクロ撮影では、内蔵フラッシュは使えません。外部フラッシュは使用できますが、フラッシュの光がけられる場合があります。撮影した画像は液晶モニタで確認してください。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真などを撮るときに便利です。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 （セルフタイマー／リモコン）ボタンを繰り返し押して、[セルフタイマー］に設定します。

- 何も操作しないで約3秒経過すると、設定が確定し、モード選択表示は自動的に消えます。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

- ピントと露出はシャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- セルフタイマー／リモコンランプが約 10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- ムービー撮影の場合、再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了してください。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、ボタンを押します。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

セルフタイマー／リモコンランプ

注意

- セルフタイマー撮影で連写をすると、設定にかかわらず最大5コマ撮影されます。

リモコン撮影（リモコン別売）

別売のリモコンを使って撮影できます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 カメラを三脚などでしっかり固定させます。

2 （セルフタイマー／リモコン）ボタンを繰り返し押して、[リモコン] に設定します。

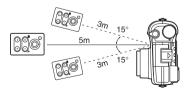
- 何も操作しないで約3秒経過すると、設定が確定し、モード選択表示は自動的に消えます。
- リモコンを使ってカメラのズーム操作ができます。（☞ P.93）

3 リモコンのシャッターボタンを押します。

- ピントと露出が固定され、カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー／リモコンランプ（リモコン受信窓）

5 撮影の応用

ヒント

リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンランプが点滅しない

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンを使ってカメラのズーム操作をしたい

→ リモコンをカメラの受信窓に向けてリモコンのWまたはTボタンを押します。操作中はセルフタイマー／リモコンランプが点滅します。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順2にしたがって［セルフタイマー／リモコンオフ］に設定してください。

注意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコンの届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコンの受信状態が悪くなると、連写が途中で終了してしまうことがあります。
- リモコンを使用して再生する方法は、リモコンの取扱説明書をお読みください。

連写(連写／高速連写／AF連写／オートブラケット)

連続撮影（連写）には、連写、高速連写、AF連写、オートブラケットの4種類があります。
画質モードがTIFFに設定されているときは、連続撮影はできません。

ドライブモード

単写	シャッターボタンを押すたびに、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
連写	最初の1コマでピント、明るさ（露出）、ホワイトバランスが固定されます。 1.3コマ／秒で約8枚（HQモード使用時）
高速連写	通常の連写より高速で連写できます。記録する画質設定によって連写速度が異なります。 1.8コマ／秒で2枚
AF連写	1コマごとにピントを合わせます。連写速度は遅くなります。
オートブラケット	☞「オートブラケット撮影」（P.95）

連写・高速連写・AF連写

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［連写］［高速連写］［AF連写］から選択し、㉂を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 再度㉂を押すと、メニューが終了します。

2 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

5 撮影の応用

オートブラケット撮影

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影するほうが良い仕上がりになる場合があります。
オートブラケット撮影を設定すると、シャッターボタンを全押ししている間、1コマごとに自動的に露出を変えて連続撮影します。変化させる露出差と連続撮影枚数は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が［±1.0］［×3］の場合

－ 1.0

0.0

＋ 1.0

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［BKT］を選択し、を押します。
「メニューの操作方法」（P.37）

2 露出差を選択します。を押して［±0.3］または［±0.7］［±1.0］を選択し、を押します。

5

撮影の応用

3 撮影枚数を選択します。⊗⊗を押して［×3］または［×5］を選択し、㊙を押します。

- メニューが消えるまで繰り返し㊙を押します。

4 撮影します。

- 設定した枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

注意

- 以下の場合、連写・高速連写・AF 連写・オートブラケット撮影はできません。
  画質モードがTIFF、またはSHQのプリント拡大
  ノイズリダクションの設定がオンの場合
- Mモードではオートブラケット撮影はできません。
- オートブラケット撮影では、内蔵フラッシュ・外部フラッシュは発光しません。
- S、Mモード以外では、シャッター速度の最長秒時は、1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。
- Sモード以外のオートブラケット撮影では、露出差0のときにシャッター速度が1/30より長秒時の場合、1/30秒に固定してブラケット撮影します。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと続けて次の撮影することはできません。

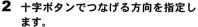
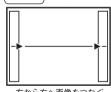
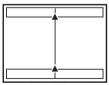
パノラマ撮影

当社製の標準カード（xD ピクチャーカード）を使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• パノラマが設定されます。

2 十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷：次の画像を右につなげます。
◁：次の画像を左につなげます。
△：次の画像を上につなげます。
▽：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

5

撮影の応用

3 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えておいて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

- 10枚撮り終わると警告マークが表示されます。

4 パノラマ撮影を終了するには、㊍を押します。

- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写は使用できません。
- 画質モードをTIFF（非圧縮）に設定してパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG（圧縮）で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマ撮影は解除され、通常の撮影モードに戻ります。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

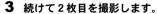
1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 合成ツーショットが設定されます。

2 1枚目を撮影します。

- 撮影した被写体は合成時には左側に配置されます。

3 続けて2枚目を撮影します。

- 撮影した被写体は合成時には右側に配置されます。
- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、モードメニューに戻ります。

撮影時の画面

注意

- 合成ツーショット撮影中、パノラマ撮影、連写は使用できません。
- 1枚目撮影後、合成ツーショットを中止したいときは㊇を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。
- 合成ツーショット撮影中にモードダイヤルを操作すると合成ツーショット撮影は解除されます。
- 1枚撮影後にスリープモードに入ると、合成ツーショット撮影は解除されます。

ファンクション撮影（モノクロ／セピア／白板／黒板）

特殊効果をつけて撮影します。

モノクロ　白黒に撮影できます。
セピア　セピア色に撮影できます。
白板　白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板　白黒写真になり黒板に書いた白字が強調され、読みやすくなります。

モードダイヤル設定　A/S/M　P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ファンクション撮影］→ファンクション撮影の種類を選択し、㊖を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- モードでは、［白板］［黒板］は選択できません。
- 再度㊖を押すと、メニューが終了します。

ヒント

白板、黒板を選択しても、文字がきれいに撮影されない
→露出補正をします。☞「露出補正」（P.110）

注意

- ［白板］［黒板］を設定すると、フラッシュは発光しません。
- ファンクション撮影を設定すると、ホワイトバランス、WB補正、彩度の設定はできません。

スチル録音

静止画撮影時に音声を録音します。シャッターが閉じてから約0.5秒後に録音を開始し、約4秒間録音します。
スチル録音をオンに設定すると、撮影後、毎回自動的に録音します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スチル録音］→［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

2 シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音する対象に向けます。

• 録音中を示すバーが表示されます。

OLYMPUS

録音マイク

ヒント

• スチル録音／ムービー録音した画像は液晶モニタに［♪］が表示されます。録音した画像を再生すると、音声がスピーカから出力されます。音量は調節することができます。☞「再生音量－音量を調整する」（P.161）
• 静止画再生中に、音声をあとから録音することができます。また、撮影中に録音済みの音声を録音し直すこともできます。☞「音声の録音」（P.135）

注意

- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音中は次の撮影ができません。
- 以下の場合は、録音できません。
  画質モードがTIFFに設定されている場合／連写（連写・高速連写・AF連写・オートブラケット）が設定されている場合
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

ムービー録音

ムービー撮影と同時に音声を録音します。

モードダイヤル設定

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ムービー録音］→［オン］を選択し、㊋を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 撮影と同時に録音が開始されます。

注意

- ムービー録音がオンに設定されていると、ムービー撮影中は、光学ズームが固定されます。ムービー撮影中にズームを使いたいときは、デジタルズームをオンに設定してください。ムービー録音をオフに設定すると、ムービー撮影中、光学ズームとデジタルズームの両方が働きます。
- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。

画質モード

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズやカードへの記録可能枚数については、P.106の表をご覧ください。

通常の画質モード

画像が精細になる（←）

画像サイズが大きくなる（↑）

<table>
<tr><th>用途</th><th>圧縮
画像サイズ</th><th>非圧縮</th><th>低圧縮</th><th>高圧縮</th></tr>
<tr><td rowspan="5">プリントサイズに合わせて選択</td><td>2288×1712</td><td rowspan="6">TIFF</td><td>SHQ</td><td>HQ</td></tr>
<tr><td>2048×1536</td><td rowspan="3">SQ1
高画質</td><td rowspan="3">SQ1
標準</td></tr>
<tr><td>1600×1200</td></tr>
<tr><td>1280×960</td></tr>
<tr><td>1024×768</td><td rowspan="2">SQ2
高画質</td><td rowspan="2">SQ2
標準</td></tr>
<tr><td>小さいプリントやホームページ用</td><td>640×480</td></tr>
</table>

●画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

●圧縮

TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮が高いほど画質は粗くなります。

●画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

特殊な画質モード

画質モード	特徴	画像サイズ
プリント拡大 （SHQ、HQ）	画像サイズを拡大します。大きなサイズでプリントするときに適しています。	3200×2400
3：2 （TIFF、SHQ、HQ）	写真店でプリントするときに適しています。	2288×1520

3：2

通常、画像の横と縦の比は4：3の比率になっていますが、3：2に設定することで、写真店でプリントする際に画像の端が切れないでプリントできます。AUTO、モードでは3：2の設定はありません。

3:2に設定したときの
モニタ表示

プリント拡大

プリント拡大を選択すると、総画素数の400万画素を800万画素相当（3200×2400）に拡大することができ、A3用紙など大きなサイズでプリントするときに有効です。画素数を増やすほどきれいにプリントすることができますが、ファイルサイズも大きくなります。AUTO、モードではプリント拡大の設定はありません。

注意

- 画質モードが SHQ のプリント拡大の設定では、連写、高速連写、AF連写、オートブラケット撮影はできません。

●画質モードとカードの記録枚数

記録可能枚数は、カードの記録容量÷ファイルサイズでおおよその計算ができます。また、カードをカメラに入れたとき、コントロールパネルや液晶モニタに表示されます。

静止画画質モード

画質モード	画像サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）16MBカードの場合	
					音声あり	音声なし
TIFF	2288×1712		非圧縮	TIFF	–	1
	3:2 2288×1520				–	1
	2048×1536				–	1
	1600×1200				–	2
	1280×960				–	4
	1024×768				–	6
	640×480				–	16
SHQ	2288×1712		低圧縮	JPEG	5	5
	3:2 2288×1520				6	6
	プリント拡大3200×2400				2	2
HQ	2288×1712		高圧縮		15	16
	3:2 2288×1520				17	18
	プリント拡大3200×2400				8	8
SQ1	2048×1536	高画質	*		8	8
		標準			19	20
	1600×1200	高画質			11	11
		標準			30	32
	1280×960	高画質			16	17
		標準			45	49
SQ2	1024×768	高画質			25	26
		標準			66	76
	640×480	高画質			58	66
		標準			124	165

*高画質→低圧縮／標準→高圧縮

ムービー画質モード

画質モード	画像サイズ	16MBカードの場合	
		音声あり	音声なし
HQ	320×240（15コマ／秒）	46秒	48秒
SQ	160×120（15コマ／秒）	186秒	211秒

注意

- カードの記録可能枚数はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても枚数が変わらないことがあります。
- ビデオ出力をPALに設定してAVケーブルを接続した状態で撮影すると、ムービーの撮影時間は「ムービー画質モード」の表の時間とは異なります。

画質モードを選択する

モードダイヤル設定　A/S/M　P

1　トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［画質モード］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 「画質モード」がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、「画質モード」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

☞「ショートカット設定」（P.147）

モードダイヤル設定　AUTO

トップメニューから◁を押して［画質モード］を選択し、［SHQ 2288×1712］［HQ 2288×1712］［SQ1 1280×960］［SQ2 640×480］から選択します。☞手順4

モードダイヤル設定

トップメニューから◁を押して［画質モード］を選択し、△▽を押して［HQ］［SQ］から選択します。☞手順4

2 ⊜⊝を押して画質モードを［TIFF］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択し、⊳を押します。

3 ⊜⊝を押して画像サイズを選択します。
［SQ1］［SQ2］を選択した場合は画像サイズを選択後⊳を押し、さらに⊜⊝を押して［高画質］または［標準］を選択します。

4 Ⓞを押します。
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれノイズが増えて画像が粗くなります。

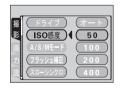
オート	被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
50/100/200/400	感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、より暗いところで撮影ができます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ISO感度］を選択して⊗⊗を押して最適なISO感度を選択し、㊐を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- **A/S/M**モードの場合、［オート］は選択できません。
- 再度㊐を押すと、メニューが終了します。

注意

- 感度を高く設定するほど画像のノイズが増えます。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

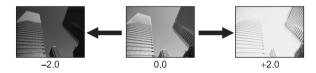
露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整します。撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。露出を補正した結果は液晶モニタ、またはビューファインダで確認できます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 ◁▷を押して、調整します。

- ＋方向に補正する　▷を押すと、1/3段刻みで＋2.0まで設定できます。
- －方向に補正する　◁を押すと、1/3段刻みで－2.0まで設定できます。

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。

注意

- Mモードでは◁▷を押すと、絞り設定になります。☞「マニュアル撮影」（P.75）
- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

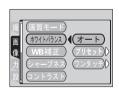
モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［ホワイトバランス］を選択し、⊳を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.37)

- 「ホワイトバランス」がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、「ホワイトバランス」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。
  ☞「ショートカット設定」(P.147)

2 ⊴⊵を押して、［オート］［プリセット］［ワンタッチ］から撮影状況にあわせて選択します。

オートを選択	㊫を押します。再度㊫を押すと、メニューが終了します。
プリセットを選択	⊳を押して次の選択画面を表示します。 ☞「プリセットホワイトバランス」(P.112)
ワンタッチを選択	⊳を押して次の選択画面を表示します。 ☞「ワンタッチホワイトバランス」(P.112)

オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

プリセットホワイトバランス

撮影する光源に応じてホワイトバランスを選択します。を押して次の中から選択し、を押します。
再度を押すと、メニューが終了します。

晴天（） 晴天時の撮影
曇天（） 曇天時の撮影
電球（） 電球（3000K)* の灯りのもとでの撮影。
蛍光灯1（） 昼光色（6700K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼光色の蛍光灯は、主に家庭で使われています。
蛍光灯2（） 昼白色（5000K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼白色の蛍光灯は､デスク上のスタンドなどに一般的に使われています。
蛍光灯3（） 白色（4200K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。白色の蛍光灯は、オフィスなどで一般的に使われています。

*色温度（K）はあくまでも目安です。正確な色を示すものではありません。

ワンタッチホワイトバランス

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します｡撮影する光源で照らされた白いものにカメラを向けてホワイトバランスを設定することにより､実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。

1 ワンタッチホワイトバランス画面が表示された状態で、カメラを白い紙に向けます。

- 紙は画面いっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 ㊊を押します。

- 新しいホワイトバランスが設定され、モードメニューに戻ります。
- ワンタッチホワイトバランスの設定を中止するときは、◁を押します。

3 メニューが消えるまで繰り返し㊊を押します。

注意

- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

WB補正

現在設定しているホワイトバランスに補正値を設定して微調整します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［WB補正］を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

- WB 補正画面上に WB 補正バーが表示されます。

2 現在のホワイトバランスの値に対し、を押すたびに青みがかり、を押すたびに赤みがかった画像になります。を押すと、調整値が決定されます。

- ホワイトバランスはBLUE方向、RED方向ともそれぞれ7段階の調節が可能です。
- 調整値決定後、再度を押すと、メニューが終了します。

シャープネス

画像の鮮鋭度を調整します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［シャープネス］を選択し、◎を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 ◎◎を押して、±5段階の調整ができます。

- ＋方向に調整　◎を押すと、画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなど鑑賞用に適しています。
- －方向に調整　◎を押すと､画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。

- 設定が終わったら、◎を押します。再度◎を押すと、メニューが終了します。

注意

- ＋方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

6

画像・画質・露出の調整

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調整します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［コントラスト］を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

2 を押して、±5段階の調整ができます。

- ＋方向に調整　を押すと、明暗の差がより大きくなりメリハリのある画質になります。
- －方向に調整　を押すと、明暗の差がより小さくなり、比較的柔らかい印象の画質になります。パソコンでの加工に適しています。

- 設定が終わったら、を押します。再度を押すと、メニューが終了します。

彩度

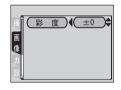
画像の色の濃さを調整します。

モードダイヤル設定 [モードアイコン] A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［彩度］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して、±5段階の調整ができます。

- ＋方向に調整 △を押すと、色が濃くなります。
- −方向に調整 ▽を押すと、色が薄くなります。

- 設定が終わったら、Ⓞを押します。再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

ノイズリダクション

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能をオンに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が1/2秒より遅いときに動作します。

ノイズリダクション：オフ

ノイズリダクション：オン

ここでの画像は、単にノイズリダクションの効果を示しているものです。実際の画像とは異なります。

モードダイヤル設定 MY A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ノイズリダクション］→［オン］または［オフ］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

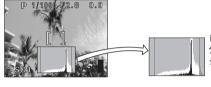
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

注意

- モードに設定していると、ノイズリダクションはオンに固定されています。
- ノイズリダクションをオンに設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約2倍になります。この間、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションの設定がオンのとき、連写、高速連写、AF 連写、オートブラケット撮影、合成ツーショット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。
- シャッター速度の遅い撮影では、三脚の使用をおすすめします。

ヒストグラム表示

撮影時および再生時にビューファインダや液晶モニタに映っている画像の輝度成分をグラフ化してヒストグラム表示します。
撮影時は、被写体の明るさのコントラストがわかるので、より厳密に露出をコントロールすることができます。
再生時は、撮影した画像のヒストグラムを表示します。
ヒストグラム表示は、撮影モードと再生モードで別々に設定することができます。

例：Pモードでヒストグラム表示したとき

ヒストグラムの緑色の部分は、AFターゲットマーク内の輝度分布です。

明るい画像のとき

枠内に多く入ると、画像は白くとび気味に写ります。

暗い画像のとき

枠内に多く入ると、画像は黒くつぶれ気味に写ります。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ヒストグラム表示］→［オン］または［オフ］を選択し、㊂を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- ［オン］を選択すると、ヒストグラムが表示されます。
- 再度㊂を押すと、メニューが終了します。

モードダイヤル設定

トップメニューで⊗を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- ヒストグラムが表示されます。
- 再度㊂を押してトップメニューを表示して⊗を押すと、通常の再生画面に戻ります。

再生モードのヒストグラム表示画面

注意

- ヒストグラム表示をオンに設定していても、以下のときはヒストグラムが表示されません。
  Mモード／パノラマ撮影時／合成ツーショット撮影時／マルチ測光中
- 撮影時に表示されたヒストグラムは、再生時に表示されるものとは異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した画像は、ヒストグラムが表示できないことがあります。

静止画を見る

モードダイヤル設定 ▶

1 モードダイヤルを▶にして、パワースイッチを押します。

☞「電源を入れる／切る」（P.30）

• 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 十字ボタンで、見たい画像を表示します。

10コマ前の画像を表示

1コマ前の画像を表示

次の画像を表示

10コマ先の画像を表示

注意

• 3分以上何も操作をしないとスリープモード（待機状態）になり、液晶モニタが消灯します。

簡単再生（QUICK VIEW）

撮影モードのままで画像を再生することができます。撮影した画像を確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。
簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

モードダイヤル設定 AUTO A/S/M P

1 撮影モードで ［QUICK VIEW］ をすばやく 2 回続けて押します。（ダブルクリック）

- すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍と段階的に拡大表示します。

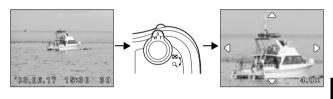
モードダイヤル設定

1　拡大したい静止画を選択します。

- 🎥のついた画像は、拡大できません。

2　ズームレバーをT側（🔍）に回します。

- 回すたびに段階的に拡大表示されます。
- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。
- W側に回すと1倍の大きさに戻ります。

注意

- 拡大した状態で画像を保存することはできません。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。表示するコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。☞「インデックス分割数を変えるには」(P.125)

モードダイヤル設定 ▶

1 1コマ再生中、ズームレバーをW側（▦）に回します。

- 十字ボタンを押して画像を選択します。
  - ◁：1つ前のコマへ移動。
  - ▷：1つ次のコマへ移動。
  - △：左上の画像の1つ前のインデックスを表示。
  - ▽：右下の画像の次のインデックスを表示。
- ズームレバーをT側に回すと1コマ再生に戻ります。

インデックス分割数を変えるには

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［インデックス表示］→［4］［9］［16］から選択し、㊰を押します。

- 再度㊰を押すと、メニューが終了します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

7 再生

自動再生

カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

モードダイヤル設定 ▶

1 静止画を選択して Ⓞ を押し、トップメニューを表示します。

2 を押すと、自動再生がスタートします。

3 Ⓞを押すと、自動再生が終了します。

- Ⓞを押すまで自動再生が繰り返されます。

注意

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過するとスリープモード（待機状態）になり、自動的に自動再生が終了します。

ムービーを見る

モードダイヤル設定

1 十字ボタンで、再生したい🎥マークの付いた画像を表示させます。

☞「静止画を見る」（P.121）

2 OKを押します。

- トップメニューが表示されます。

3 △を押して［ムービープレイ］を選択します。

4 △▽を押して［ムービー再生］を選択し、OKを押します。

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻ります。
- 再生中は早送り／早戻しができます。
  - ▷：早送りします。
    押すたびに速度が2倍速→20倍速→1倍速の順に切り換わります。
  - ◁：早戻しします。
    押すたびに2倍速→20倍速→1倍速の順に切り換わります。

・再生終了後に、再び㊙を押すとメニューが表示されます。
再生　もう一度再生します。
コマ送り　コマ送りをします。
中止　再生を中止します。

⊜⊝を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選択し、㊙を押します。

●［コマ送り］を選択したときの操作

⊜　：ムービーの先頭のコマを表示します。
⊝　：ムービーの末尾のコマを表示します。
⊳　：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
⊲　：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
㊙　：ムービー再生メニューが表示されます。

ヒント

・撮影モードからも簡単再生（QUICK VIEW）でムービーを再生できます。☞「簡単再生（QUICK VIEW）」（P.122）

注意

・カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。カードアクセスランプの点滅中は、絶対にカードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、カードが破壊され使用できなくなる場合があります。

ムービーの編集

撮影したムービーからインデックスを作成したり、編集することができます。ただし、以下のムービー画像は編集できません。

音声なし： HQで約30秒、SQで約150秒以上撮影したムービー画像
音声あり： HQで約30秒、SQで約130秒以上撮影したムービー画像

インデックス作成 作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

ムービー編集 撮影したムービーから必要な部分を切り出して編集します。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで🎥のついた画像を選択します。

2 トップメニューから［ムービープレイ］→各編集項目を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- ［インデックス作成］を選択 ☞P.129
- ［ムービー編集］を選択 ☞P.131

インデックス作成

3 ⊙⊙を押して［インデックス作成］を選択し、⊛を押します。

- カードの空き容量が不足するときは警告画面が表示され、設定画面に戻ります。

4 十字ボタンでインデックスの先頭のコマを選択し、ⓞを押します。

△：ムービーの先頭のコマへジャンプします。
▽：ムービーの末尾のコマへジャンプします。
▷：コマが進みます。押し続けると再生します。
◁：コマが戻ります。押し続けると逆再生します。

5 手順4と同様に十字ボタンでインデックスの後尾のコマを選択し、ⓞを押します。

6 △▽を押して［決定］を選択し、ⓞを押します。

- ムービーから抜き出された 9 コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択してⓞを押します。手順4からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択して ⓞ を押してください。

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ2（1024×768ピクセル：高画質）
SQ	SQ2（640×480ピクセル：高画質）

注意

- 自動的に抜き出される画像の間隔は自動的に決まります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

ムービー編集

3 △▽を押して［ムービー編集］を選択し、OKを押します。

4 十字ボタンでムービーの残したい部分の先頭のコマを選択し、OKを押します。

△：ムービーの先頭のコマへジャンプします。

▽：ムービーの末尾のコマへジャンプします。

▷：コマが進みます。押し続けると再生します。

◁：コマが戻ります。押し続けると逆再生します。

5 手順4と同様に十字ボタンでムービーの残したい部分の最後のコマを選択し、OKを押します。

7

再生

6 ⊘⊘を押して［決定］を選択し、㊫を押します。

- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択して㊫を押します。手順4からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択して㊫を押してください。

7 ⊘⊘を押して［新規作成］または［上書き保存］を選択し、㊫を押します。

新規作成　編集したムービーを新しいムービーとして保存します。
上書き保存　編集したムービーを元のムービーの名前で保存します。元のムービーは失われます。

- 編集されたムービーが新規作成または上書き保存され、再生モードに戻ります。

注意

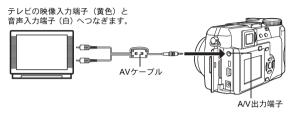
- 他のカメラで撮影した音声付きのムービーは編集できません。
- カードの空き容量が不足している場合は、［新規作成］は選択できません。

テレビでの再生

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画とムービーの両方の再生ができます。

モードダイヤル設定

1 カメラとテレビの電源を切り、AVケーブルでカメラのA/V出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

テレビの映像入力端子（黄色）と音声入力端子（白）へつなぎます。

2 テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 モードダイヤルを▶に合わせて、カメラの電源を入れます。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。
- 「クローズアップ再生」、「インデックス再生」、「自動再生」等の再生機能が可能です。

ヒント

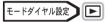
- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

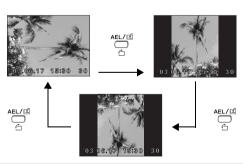
注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力－ビデオ出力方式を選択する」（P.167）
- AV ケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタやビューファインダの表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。

- テレビには画像全体を表示するために少し小さめに表示され、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠が表示されることがあります。

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。反時計方向に90度、時計方向に90度の回転ができます。

1 1コマ再生中、（回転再生）ボタンを押します。

- ボタンを押すたびに、画像が反時計方向に90度、時計方向に90度、元の位置の順に回転します。

- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

音声の録音

撮影済みの静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1画面につき約4秒間です。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで音声を録音したい静止画を選択します。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［録音］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

3 ▷を押すと［スタート］が表示されます。

4 カメラのマイクを録音したい対象に向けてⓄを押すと、録音が開始されます。

- 録音中を示すバーが表示されます。

注意

- 録音対象がカメラから約1m以上はなれると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れず（無音状態）再録音してください。

静止画の編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

リサイズ　画像サイズを640×480、または320×240に変更して、別の画像として保存します。
トリミング　画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。

モードダイヤル設定

1 十字ボタンで編集したい静止画を選択します。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→各編集項目を選択します。
☞「メニューの操作方法」（P.37）

- ［リサイズ］を選択 ☞ P.136
- ［トリミング］を選択 ☞ P.137

十字ボタン
OKボタン

リサイズ

3 ［リサイズ］を選択した状態で、▷を押します。

4 △▽を押して画像サイズを選択し、OKを押します。
- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、再生モードに戻ります。
- リサイズを中止するときは［中止］を選択し、OKを押します。

注意

- 次の場合はリサイズできません。
  ムービー／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合
- 撮影時の画像サイズが640×480の場合、［640×480］の設定はできません。

トリミング

3 ［トリミング］を選択した状態で、▷を押します。

4 △▽を押して［新規作成］選択し、OKを押します。

5 十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- △▽◁▷を押してトリミングする位置を移動します。
- ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。トリミング枠が最大、または最小になると枠の縦横が変わります。

6 OKボタンを押します。

7 △▽を押して［決定］を選択し、OKを押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、再生モードに戻ります。
- トリミングされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- トリミングをやり直す場合は［再設定］を選択してOKを押します。手順5からやり直します。
- トリミングをやめるときは［中止］を選択してOKを押してください。

7

再生

注意

- 次の場合はトリミングできません。
  ムービー／カードの空き容量が不足している場合／
  画質モードを［プリント拡大］に設定した画像
- 他のカメラで撮影した画像は、トリミングできない場合があります。
- トリミングした画像を印刷した場合、粗くなることがあります。

画像にプロテクト（保護）をかける O┳

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

モードダイヤル設定

1　十字ボタンで、プロテクトをかけたい画像を表示します。

☞「静止画を見る」（P.121）

2　O┳（プロテクト）ボタンを押します。

- プロテクトを解除するには、再び O┳ ボタンを押します。

プロテクトされると表示されます。

注意

- プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1 コマのみを消去する1 コマ消去とカード内のすべての画像を消去する全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクト（保護）をかける」（P.139）

1コマ消去

モードダイヤル設定

1 十字ボタンで、消去したい画像を表示します。

☞「静止画を見る」（P.121）

2 （消去）ボタンを押します。

•「1コマ消去」画面が表示されます。

3 を押して［消去］を選択し、を押します。

・画像が消去され、メニューが終了します。

7

再生

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

モードダイヤル設定

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、⊳を押します。
☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して［全コマ消去］を選択し、OKを押します。

3 △▽を押して［消去］を選択し、OKを押します。
- すべての画像が消去されます。

7
再生

設定クリア－電源を切っても設定を残す

電源を切った後も、変更した設定値を保持することができます。設定クリアが適用される機能については次頁の表を参照してください。
設定クリアの「オン」「オフ」の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで設定クリアを設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

オン 電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。（初期状態）
例）「画質モード」をSQ1に変更しても「設定クリア」が「オン」に設定されていると、電源を入れなおしたときに初期設定のHQに戻ります。

オフ 電源を切っても変更した設定値は保持されます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［設定クリア］→［オフ］または［オン］を選択し、㊋を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度㊋を押すと、メニューが終了します。

注意

• マイモードの設定およびモードメニューの設定タブの機能（設定クリア、ビープ音など）は、設定クリアがオンに設定されていても初期設定に戻りません。

●設定クリアで設定が元に戻る機能とその設定

機能名	初期設定	参照頁	機能名	初期設定	参照頁
絞り値	F2.8	P.73	AF方式	iESP	P.77
シャッター速度	1/1000	P.74	スーパーマクロ	オフ	P.90
露出補正	0.0	P.110	ファンクション撮影	オフ	P.101
フラッシュ	オート	P.60	撮影情報表示	オフ	P.155
フラッシュ補正	0.0	P.67	ヒストグラム表示	オフ	P.119
AF／MF	AF	P.82	スチル録音	オフ	P.102
スポット／マクロ	オフ	P.84, 89	ムービー録音	オフ	P.103
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.91, 92	スーパーズーム	オフ	P.58
液晶モニタ*	オフ（消灯）	—	画質モード	HQ	P.104
光学ズーム	ワイド	P.57	ホワイトバランス	オート	P.111
ドライブ	単写	P.94	WB補正	補正なし	P.114
BKT設定	±1.0、3枚	P.95	シャープネス	±0	P.115
ISO感度	オート／50	P.109	コントラスト	±0	P.116
A/S/M	A	P.72	彩度	±0	P.117
スローシンクロ	先幕効果	P.66	TIFF・SHQ・HQ設定	2288×1712	P.107
ノイズリダクション	オフ	P.118	SQ1設定	1280×960 標準	P.107
マルチ測光	オフ	P.85	SQ2設定	640×480 標準	P.107
デジタルズーム	オフ	P.59	情報表示	オフ	P.155
フルタイムAF	オフ	P.78			

* 撮影モードで電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。

カスタムボタン設定

カスタムボタンに使用頻度の高い機能を登録します。カスタムボタンに登録すると、トップメニュー画面からショートカットメニューやモードメニューを選択して画面を表示するのではなく、カスタムボタンを押して直接、設定画面を表示することができます。

カスタムボタンに設定できる機能	設定内容	参照頁
AEロック（初期設定）	－	P.87
AFロック	－	P.80
ドライブ	単写、連写、高速連写、AF連写、ブラケット	P.94
ISO感度	オート、50、100、200、400	P.109
A/S/Mモード	A、S、M	P.72
スローシンクロ	先幕効果、赤目・先幕効果、後幕効果	P.66
ノイズリダクション	オフ、オン	P.118
デジタルズーム	オフ、オン	P.59
フルタイムAF	オフ、オン	P.78
AF方式	iESP、スポット	P.77
スーパーマクロ	オフ、オン	P.90
ファンクション撮影	オフ、モノクロ、セピア、白板、黒板	P.101
撮影情報表示	オフ、オン	P.155
ヒストグラム表示	オフ、オン	P.119
画質モード	TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.104
ホワイトバランス	オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯 1 、蛍光灯 2 、蛍光灯 3	P.111
スチル録音	オフ、オン	P.102
スーパーズーム	オフ、オン	P.58

カスタムボタンに機能を登録する

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［カスタムボタン設定］を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

2 を押して設定する機能を選択し、を押します。

- 再度を押すと、メニューが終了します。

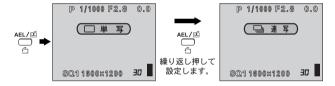
カスタムボタンを使う

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 AEL/ (AEロック/カスタム) ボタンを押します。

• 液晶モニタが点灯し、登録した機能がメニュー表示されます。

AEL/ボタン

例）カスタムボタンに「ドライブ」を登録した場合

ヒント

カスタムボタンにISOを登録したが、AEロックを使いたい

→ カスタムボタンに AE ロック以外のメニュー機能が登録されているときは、AEロックは使用できません。AEロックを使うには、「カスタムボタンに機能を登録する」(P.145) にしたがって、カスタムボタンをAEロックに登録してください。

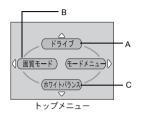
注意

• 各モードで異なった登録をすることはできません。

8 カメラの便利機能

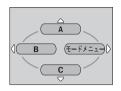
ショートカット設定

静止画撮影モード（AUTOを除く）のトップメニューのショートカットメニュー（A、B、C）を登録します。
使用頻度の高い機能をショートカットメニューとして登録しておくと、ダイレクトにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

トップメニュー

初期値
A: ドライブ
B: 画質モード
C: ホワイトバランス

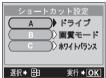
ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁	ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁
ドライブ	P.94	合成ツーショット	P.99
ISO感度	P.109	ファンクション撮影	P.101
A/S/Mモード	P.72	AFターゲット選択	P.79
My1/2/3/4	P.76	撮影情報表示	P.155
フラッシュ補正	P.67	ヒストグラム表示	P.119
スローシンクロ	P.66	画質モード	P.104
ノイズリダクション	P.118	ホワイトバランス	P.111
マルチ測光	P.85	WB補正	P.114
デジタルズーム	P.59	シャープネス	P.115
フルタイムAF	P.78	コントラスト	P.116
AF方式	P.77	彩度	P.117
スーパーマクロ	P.90	スチル録音	P.102
パノラマ	P.97	スーパーズーム	P.58

ショートカットメニューを登録する

右図のA、B、Cの位置のショートカットメニューを登録します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ショートカット設定］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して［A］［B］［C］から選択し、▷を押します。

3 △▽を押して設定する機能を選択し、Ⓞを押します。

- ショートカットメニューが設定されました。
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

8 カメラの便利機能

ショートカットメニューを使う

設定したショートカットメニューを使用します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 を押してトップメニューを表示します。

- 登録したショートカットメニューがトップメニューに表示されます。

2 またはを押して、ショートカットメニューを選択します。

- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

例）ショートカットメニューAに「WB補正」を登録した場合

を押すとWB補正設定画面までジャンプします。

- 各モードで異なった登録をすることはできません。

マイモード設定－マイモードに機能を登録する [My]

撮影に関する機能を自由に設定し、マイモードとして登録します。設定してある内容をそのままマイモードとして登録することもできます。
マイモードを設定してモードダイヤルを[My]にすると、その設定で撮影することができます。マイモード設定は、マイモード1〜4まで4種類のパターンが設定できます。マイモード1のみ初期値が設定されています。

●マイモード設定が適応される項目

マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁	マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁
P/A/S/M/S-Prg	P	P.46	フルタイムAF	オフ	P.78
絞り値	F 2.8	P.73	AF方式	iESP	P.77
シャッタ速度	1/1000	P.74	スーパーマクロ	オフ	P.90
露出補正	0.0	P.110	パノラマ	オフ	P.97
LCD*1	オフ	—	合成ツーショット	オフ	P.99
ズーム位置*2	38mm	—	ファンクション撮影	オフ	P.101
フラッシュ	オート	P.60	撮影情報表示	オフ	P.155
スポット／マクロ	オフ	P.84, 89	ヒストグラム表示	オフ	P.119
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.91, 92	スチル画質	HQ	P.104
ドライブ	単写	P.94	ホワイトバランス	オート	P.111
AF/MF	AF	P.82	WB補正	補正なし	P.114
ISO感度	オート	P.109	シャープネス	±0	P.115
フラッシュ補正	0.0	P.67	コントラスト	±0	P.116
スローシンクロ	先幕効果	P.66	彩度	±0	P.117
ノイズリダクション	オフ	P.118	スチル録音	オフ	P.102
マルチ測光	オフ	P.85	スーパーズーム	オフ	P.58
デジタルズーム	オフ	P.59			

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 [My]モードでのズーム位置の設定は、38mm/50mm/100mm/200mm/380mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmカメラの焦点距離換算値です。）

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［マイモード設定］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 を押してマイモード設定の種類を選択し、を押します。

現設定　現在のカメラの設定を一括して登録します。
クリア　現在登録されている設定を初期値に戻します。
カスタム　1つずつ機能を登録します。

- マイモード登録画面が表示されます。

3 設定するマイモードのNo.を選択します。

- を押して［マイモード1］～［マイモード4］を選択し、を押します。

●手順2で［現設定］を選択

4 を押して［登録］を選択し、を押します。

- 選択したマイモードに現在のカメラの設定が登録されます。

8 カメラの便利機能

●手順2で［クリア］を選択

4 ⊗⊗を押して［クリア］を選択し、㊙を押します。

- 選択したマイモードに登録されている設定がクリアされます。
  何も登録されていないとマイモード撮影で選択できません。

●手順2で［カスタム］を選択

4 ⊗⊗を押してマイモードに設定するカスタム設定項目を選択し、⊗を押します。

- カスタム設定項目については、「マイモード設定が適応される項目」（P.150）を参照してください。

⊗⊗を押してカスタム設定項目の設定を変更し、㊙を押します。

- 設定内容が保存されます。
- 必要に応じて他のカスタム設定項目の設定も変更します。

5 すべての設定が終了したら㊙を押します。

- 手順2の画面に戻ります。
- 再度㊙を押すと、メニューが終了します。

注意

- 「現設定」で設定を登録したときに、ズームの位置がずれる場合があります。ズームの位置は、「マイモード設定」内の「ズーム位置」の5つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含む全てのデータは消去されます。すでに使用しているカードは、大切なデータが記録されていないことを確認してからフォーマットしてください。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］→を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

- フォーマット画面が表示されます。

モードダイヤル設定 AUTO

トップメニューからを押して［カードセットアップ］を選択します。

モードダイヤル設定

トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］→を選択し、を押します。を押して［フォーマット］を選択し、を押します。

8

カメラの便利機能

2 ⊗を押して［フォーマット］を選択し、㊫を押します。

- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

注意

- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
  カードカバーを開ける／電池を取り外す／ACアダプタの抜き差しをする（カメラに電池が入っている、いないにかかわらず絶対にしないでください。）

情報表示－画像の詳細情報を表示する

画像の詳細情報を約3秒間表示します。表示される情報の内容については、「ビューファインダと液晶モニタの表示」（P.18）を参照してください。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［撮影情報表示］→［オフ］または［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

モードダイヤル設定 ▶

トップメニューで◁を押すと詳細情報が表示されます（オン）。

• 再度Ⓞを押してトップメニューを表示させて、◁を押すと詳細情報が表示されなくなります（オフ）。

例）再生モード

情報表示オンの時

情報表示オフの時

注意

• このカメラ以外で撮影した画像は、▶モードで情報表示オン時でもすべての情報が表示されないことがあります。
• ヒストグラム表示が設定されているときは、情報表示オン／オフに関わらずヒストグラムが表示されます。
• DPOFを使用せずにプリントサービスを利用する場合に指定するファイル番号は、▶モードで情報表示をオンにしたときに表示されます。☞「プリント予約とは」（P.168）

モニタ調整－液晶モニタとビューファインダの明るさを調整する

液晶モニタとビューファインダの明るさを見やすいように調整します。
液晶モニタとビューファインダは別々に明るさを調整することができます。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.37）

2 液晶モニタ、またはビューファインダを見ながらを押して明るさを調整し、設定が決まったらを押します。

- を押すと明るくなり、を押すと暗くなります。
- 再度を押すと、メニューが終了します。

8

カメラの便利機能

レックビュー－撮影後すぐに画像を確認する

撮影した画像の記録中にその画像を液晶モニタに表示することができます。

オン　撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

オフ　記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

モードダイヤル設定　A/S/M　P

1　トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］→［オフ］または［オン］を選択し、㊝を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度㊝を押すと、メニューが終了します。

8

カメラの便利機能

スリープ時間－待機状態に入るまでの時間を設定する

カメラは、何も操作しない状態で、設定した時間が経過するとスリープモード（待機状態）になり、動作を停止します。スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどいずれかのボタンを操作してください。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［スリープ時間］→［30秒］［1分］［3分］［5分］［10分］から選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

注意

- ACアダプタを使用しているときは、スリープモードになりません。
- ▶モードでは、設定にかかわらず3分経過するとスリープモードになり、液晶モニタが消灯します。
- 自動再生をしているときは、30分経過するとスリープモードになりなり、液晶モニタが消灯します。

ビープ音－警告音や操作音を設定する

カメラが発する警告音や操作音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を「小」「大」から選択できます。ご購入時は音色「1」、音量「小」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.37)

2 ［1］または［2］を選択してを押し、さらに［小］または［大］を選択してを押します。

- 無音に設定する場合は［オフ］を選択し、を押します。
- 再度を押すと、メニューが終了します。

シャッター音−シャッター音を設定する

シャッターボタンを押して撮影したときに発するシャッター音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を「小」「大」から選択できます。ご購入時は音色「1」、音量「小」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［シャッタ音］を選択し、Ⓓを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 ［1］または［2］を選択してⒹを押し、さらに［小］または［大］を選択してⓄを押します。

- 無音に設定する場合は［オフ］を選択し、Ⓞを押します。
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

8

カメラの便利機能

再生音量－音量を調整する

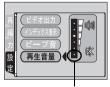
静止画の音声メモやムービー再生時の音量、電源を入れたり切ったりするときの音量を設定します。5段階の音量が設定できます。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［再生音量］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して音量を設定し、Ⓞを押します。

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

ここに設定すると音声は再生されません。

8

カメラの便利機能

PW ON／OFF設定－起動時と終了時の画面と音を設定する

電源を入れたときと切ったときに表示される画面と音を設定します。自分で画像を登録して設定することもできます。☞「画面登録－起動時と終了時に表示される画面を登録する」（P.163）

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［PW ON/OFF設定］を選択し、▷を押します。
☞「メニューの操作方法」（P.37）

2 △▽を押して［画面］を選択し、▷を押します。△▽を押して［オフ］または［1］［2］を選択し、◁を押します。

オフ 画面表示なし
1 初期設定
2 自分で登録した画像が選択できます。何も登録されていないと、電源を入れたとき／切ったときに何も表示されません。

3 △▽を押して［音］を選択し、▷を押します。△▽を押して［オフ］または［オン］を選択し、◁を押します。

オフ 無音
オン 初期設定

- 音量は再生音量で設定した音量です。
☞「再生音量－音量を調整する」（P.161）
- 設定が終了したらⓄを押します。
メニューが消えるまで繰り返しⓄを押します。

画面登録－起動時と終了時に表示される画面を登録する

電源を入れたときと切ったときに表示される画面を登録します。カードに保存されている画像から登録することができます。登録した画面を表示するときはPW ON／OFF設定を行います。
☞「PW ON／OFF設定－起動時と終了時の画面と音を設定する」(P.162)

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［画面登録］を選択し、▷を押します。
☞「メニューの操作方法」(P.37)

- すでに画像が登録されている場合は、登録済みの画像を解除して新たに画像を登録するかどうか確認するメッセージが表示されます。画面を登録する場合は［解除する］を選択し、㊙を押します。［解除しない］を選ぶとメニューに戻ります。

2 十字ボタンで登録する画像を選択し、㊙を押します。

3 △▽を押して［決定］を選択し、㊙を押します。

- 画面登録され、メニューに戻ります。
- 再度㊙を押すと、メニューが終了します。

注意

- このカメラで正しく再生できない画像およびムービーコマは、画面登録できません。

ファイル名メモリー－ファイル名の付け方を設定する

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.（0001-9999）、フォルダNo.（100-999）を含み、以下のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

￥DCIM￥***OLYMP￥Pmdd****.jpg

フォルダNo.（100~999）　月（1~C）　日（01~31）　ファイルNo.（0001~9999）

• ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、［リセット］［オート］の2種類あります。パソコンで画像を取り込む際に、扱いやすい方をお選びください。

ファイル名メモリーの設定

リセット　カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No.100」に、ファイルNo.は「No.0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

オート　カードを入れ換えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。すべての画像を通し番号で管理するのに便利です。

モードダイヤル設定　A/S/M　P

1　トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ファイル名メモリー］→［リセット］または［オート］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

注意

- ファイルNo.が9999を超えるとファイルNo.は0001に戻り、フォルダNo.が変わります。
- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

ピクセルマッピング－画像処理機能をチェックする

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ピクセルマッピング］を選択し、を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

- 「スタート」と表示されます。

2 を押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

m／ft設定－距離の単位を選択する

マニュアルフォーカスモード時の画面に表示される距離の単位を選択します。

m　長い距離はメートル、短い距離はセンチで表示します。
ft　長い距離はフィート、短い距離はインチで表示します。

モードダイヤル設定　A/S/M　P

1　トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［m／ft］→［m］または［ft］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。

ビデオ出力－ビデオ出力方式を選択する

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。「ビデオ出力」はビデオケーブルを接続する前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

モードダイヤル設定 A/S/M P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ信号］→［NTSC］または［PAL］を選択し、Ⓢを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.37）

• 再度Ⓢを押すと、メニューが終了します。

ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号

カメラをお使いのときは、あらかじめご確認ください。

NTSC　日本、台湾、韓国、北米

PAL　ヨーロッパ諸国、中国

8

カメラの便利機能

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格で、プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする
予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする
パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016
フォルダの通し番号　画像の通し番号

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi （dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpi の値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質モード」（P.104）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き残量が少ないと予約できない場合があります。「カード残量がありません」と表示されます。
- DPOF 予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999枚までです。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示（インデックス表示）しているときは、凸マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- TIFF で記録された画像は、プリントできない場合があります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約

カードの中の全画像をプリント予約します。プリントする枚数と撮影日時のプリントを指定することができます。

モードダイヤル設定

1 静止画を再生します。

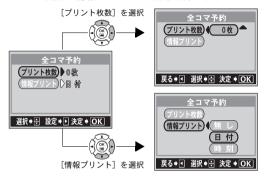
- 🎥のついた画像はプリント予約できません。

2 (プリント予約)ボタンを押してカードプリント予約画面を表示します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。

3 ⊜⊝を押して、[全コマ予約]を選択し、㊋を押します。

4 ⊜⊝を押して、[プリント枚数][情報プリント]から選択し、⊳を押します。

5 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

△▽を押してプリント枚数を設定し、OKを押します。
△ ：枚数が増えます。
▽ ：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

△▽を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、OKを押します。
無し 画像のみプリントされます。
日付 全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻 全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。
• プリント枚数、情報プリントの設定後、OKを押すと、再生画面に戻ります。

1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。

モードダイヤル設定

1 静止画を再生します。

- 🎥のついた画像はプリント予約できません。

2 (プリント予約)ボタンを押してカードプリント予約画面を表示します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。

3 を押して、[1コマ予約]を選択し、を押します。

4 プリント予約したいコマを十字ボタンを使って選択し、を押します。

5 プリント予約したい内容に応じて、十字ボタンで項目を選択します。

1コマ予約メニュー画面

詳細予約　プリント枚数、情報プリント、トリミングを設定します。予約が設定され、手順6へ進みます。
1枚予約　プリント枚数が 1 枚の設定のみです。情報プリント、トリミングの設定はありません。→手順9
予約解除　表示されている画像のプリント予約を解除します。
→「プリント予約の解除」（☞ P.177）
予約終了　プリント予約を終了します。→手順11

6 ⊜⊝を押して、[プリント枚数][情報プリント][トリミング] から選択し、⊳を押します。

7 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

⊜⊝を押してプリント枚数を設定し、Ⓞを押します。
⊜　：枚数が増えます。
⊝　：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

⊜⊝を押して［無し］［日付］［時刻］を選択し、Ⓞを押します。
無し　画像のみプリントされます。
日付　プリント予約した全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻　プリント予約した全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

●トリミングをするには

☞「トリミング」(P.175)

8 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定後、Ⓞを押すと、プリント予約が設定され、手順4の画面に戻ります。

- 表示されている画像に 凸 マークが表示されます。

9 Ⓞを押して1コマ予約メニュー画面を表示させます。

10 ◁を押して［予約終了］を選択します。

- カードプリント予約画面に戻ります。

11 再度◁を押すと予約確認の画面が表示され、もう一度◁を押すと、プリント予約を終了します。

トリミング

撮影した画像の一部を拡大してプリントします。

モードダイヤル設定

1 1コマ予約画面で△▽を押して［トリミング］を選択し▷を押します。

☞「1コマ予約」(P.172)

- すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、△▽を押して［再設定］を選択し、OKを押します。

トリミング
決　定
再設定
中　止
選択
実行 OK

2 十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- △▽◁▷を押してトリミングする位置を移動します。
- ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。トリミング枠が最大、または最小になると枠の縦横が変わります。

3 OKを押します。

9
プリント予約

4　△▽を押して［決定］を選択し、OKを押します。

決定　設定されているトリミングを保存します。1コマ予約画面に戻ります。

再設定　再度トリミングをし直します。→手順2

中止　設定されているトリミングを解除します。1コマ予約画面に戻ります。

5　OKを押すとプリント予約が設定され、画像の選択に戻ります。再びOKを押します。

6　◁を押して［予約終了］を選択します。

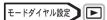
- カードプリント予約画面に戻ります。
- 再度 ◁ を押すと予約確認の画面が表示され、もう一度◁を押すと、プリント予約を終了します。

注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行うためには、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をおすすめします。
- 元の画像はトリミングされていません。トリミングに対応していないプリンタでは、通常のプリントになります。
- トリミングを設定した画像を回転再生しないでください。トリミングで指定した範囲が変わります。

プリント予約の解除

カード内の画像のプリント予約を解除します。
すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

●全ての予約の解除

1 （プリント予約）ボタンを押します。

2 を押して[解除する]を選択し、を押します。

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。

3 を押して、メニューを終了します。

9
プリント予約

●1コマ予約の解除

モードダイヤル設定 ▶

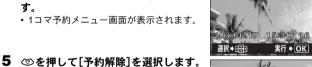
1 凸（プリント予約）ボタンを押します。

2 ▲▼を押して［解除しない］を選択し、(OK)を押します。

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。

3 ▲▼を押して［1コマ予約］を選択し、(OK)を押します。

4 プリント予約を解除したいコマを十字ボタンを使って選択し、(OK)を押します。

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

5 ▼を押して[予約解除]を選択します。

- プリント予約が解除され、手順4の画面に戻ります。

6 他に予約解除する画面がない場合は、(OK)を押します。

- 1コマ予約メニュー画面が表示されます。

7 ◀を押して［予約終了］を選択します。

- 再生画面に戻るまで、繰り返し◀を押します。

10 ダイレクトプリント

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約」（P.168）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.182～187）で［凸標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

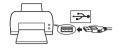
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

注意

- 電源には別売のACアダプタのご使用をおすすめします。充電式電池をご使用の場合は、充分に充電された電池をお使いください。また、アルカリ電池をご使用の場合は、新品のアルカリ電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 カメラのモードダイヤルを▶に合わせ、専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。

3 カメラのパワースイッチを押して、カメラの電源を入れます。

- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

パワースイッチ

4 ⊿▽を押して[プリント]を選択し、Ⓞを押します。

- 「しばらくお待ちください」と表示されたあと、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。☞「プリントする」（P.181）に進みます。

注意

- 手順4で「PC」を選択すると、プリントモード選択画面は表示されません。数分待っても表示されないときは、カメラの電源を切って手順1からやり直してください。

プリントする

カメラをPictBridge対応プリンタに接続すると、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

プリント 選択した画像をプリントします。
☞「プリントモード/マルチプリントモード」(P.181)

全コマプリント カードの中の全画像をプリントします。
☞「全コマプリントモード」(P.185)

マルチプリント* 1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
☞「プリントモード/マルチプリントモード」(P.181)

全コマインデックス* カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
☞「全コマインデックスモード/予約プリントモード」(P.187)

予約プリント* プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約(P.168)された画像が無いときは、選択できません。
☞「全コマインデックスモード/予約プリントモード」(P.187)

* プリンタによっては選択できません。

プリントモード/マルチプリントモード

1 プリントモード選択画面で、△▽を押して[プリント]、または[マルチプリント]を選択し、OKを押します。
- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 ◎◎を押して用紙サイズを選択し、◎を押します。

プリントモードの画面

- **プリントモードの場合**
  →手順3へ進みます。
- **マルチプリントモードの場合**
  →手順4へ進みます。
- 用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチまたは分割数の設定は標準設定になります。→手順5へ進みます。

3 ◎◎を押してフチの有無を選択し、◎を押します。→手順5へ進みます。

有り（□）　用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□）　用紙いっぱいにプリントします。

4 ◎◎を押して分割数を選択し、◎を押します。

プリント用紙設定
サイズ　分割数
標準設定　16
選択　決定 OK

- 設定可能な分割数は、手順2で選択した用紙サイズやプリンタの種類によって異なります。

5 ◎◎を押してプリントする画像を選択します。

- ズームレバーを W 側に回すと、インデックス表示されます。インデックスから画像を選択することもできます。

6 予約方法を選択します。

1枚予約　選択している画像を標準設定で予約します。プリント枚数は1枚です。
詳細予約　選択している画像のプリント枚数を設定してプリント予約します。日付やファイル名の付加、画像のトリミングなどの設定もできます。

●1枚予約する

⊕を押します。

- 凸が表示されている画像のときに⊕を押すと、予約が解除されます。

予約マークが表示されます。

●詳細予約する

① ⊖を押します。

- プリント情報設定画面が表示されます。

② ⊕⊖を押して設定したい項目を選択し、▷を押します。

- ⊕⊖を押して設定を変更し、㊉を押します。
- 設定可能な項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタが対応していない項目は選択できません。

プリント枚数	プリント枚数を設定します。枚数は 10 枚まで設定できます。
日付（⊖）	［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。
ファイル名（FILE）	［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。
トリミング（凵）	撮影した画像の一部を拡大してプリントします。☞「トリミングするには」（P.189）

- マルチプリントモードでは、［日付］［ファイル名］の設定はできません。

③ **詳細予約の設定が終了したら、㉀を押します。**
- 手順5の画面に戻ります。

- 複数の画像をまとめてプリントまたはマルチプリントするときは、手順5と手順6の「1枚予約」と「詳細予約」を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。
- マルチプリントモードでは、▦が表示されます。

7 ㉀を押します。
- プリント画面が表示されます。

8 プリントします。
- ⊗⊗を押して［プリント］［中止］から選択し、㉀を押します。

プリント プリントを開始します。
中止 設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.190）

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータを転送中に㉀を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、⊗⊗を押して［中止］を選択し、㉀を押します。

全コマプリントモード

1 プリントモード選択画面で、⊗⊗を押して［全コマプリント］を選択し、㊝を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 ⊗⊗を押して用紙サイズを選択し、⊳を押します。

- 用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。→手順4へ進みます。

3 ⊗⊗を押してフチの有無を選択し、㊝を押します。

有り（□）	用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□）	用紙いっぱいにプリントします。

- プリント情報設定画面が表示されます。

4 ⊗⊗を押して設定したい項目を選択し、⊳を押します。

- ⊗⊗ を押して設定を変更し、㊝ を押します。
- プリント情報設定ができないプリンタの場合は、手順6へ進みます。
- 設定可能な項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタが対応していない項目は選択できません。

日付（◷）	［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。
ファイル名（FILE）	［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。

5 ㊙を押します。

- プリント画面が表示されます。

6 プリントします。

- ⊜⊝ を押して［プリント］［中止］から選択し、㊙を押します。

プリント　プリントを開始します。
中止　設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.190）

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータの転送中に㊙を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、⊜⊝を押して［中止］を選択し、㊙を押します。

全コマインデックスモード/予約プリントモード

1 プリントモード選択画面で、⊕⊖を押して［全コマインデックス］、または［予約プリント］を選択し、㊙を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 ⊕⊖を押して用紙サイズを選択し、⊳を押します。

- 用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
- 選択しているプリントモードによっては、用紙サイズまたはフチの選択はできません。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。→手順4へ進みます。

3 ⊕⊖を押してフチの有無を選択し、㊙を押します。

有り（□） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。

- プリント画面が表示されます。

4 プリントします。

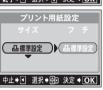
- ⊕⊖ を押して［プリント］［中止］から選択し、㊙を押します。

プリント プリントを開始します。
中止 設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.190）

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータの転送中に㊙を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、⊘⊘を押して［中止］を選択し、㊙を押します。

注意

- 全コマインデックスプリントでは、分割数などの設定はプリンタによって自動的に決められます。
- インデックスの機能に対応していないプリンタでは、全コマインデックスプリントはできません。
- DPOFに対応していないプリンタでは、予約プリントはできません。

トリミングするには

プリントモード/マルチプリントモード（P.181）の詳細予約でトリミングを設定するときは、以下の手順で行います。

1 十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。

- ⊜⊝⊲⊳を押してトリミングする位置を移動します。
- ズームレバーをW側またはT側に回してトリミングのサイズを決めます。トリミング枠が最大、または最小になると枠の縦横が変わります。
- すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、⊜⊝を押して［再設定］を選択し、Ⓞを押します。

2 Ⓞを押します。

3 ⊜⊝を押して［決定］を選択し、Ⓞを押します。

トリミング
決　定
再設定
解除
選択
実行 OK

決定	設定されているトリミングを保存します。
再設定	再度トリミングをしなおします。→手順1に戻ります。
解除	設定されているトリミングを解除します。

- Ⓞを押すとトリミングが設定され、プリント情報設定画面に戻ります。

注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行うためには、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をおすすめします。

ダイレクトプリントを終了する

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

1 プリントモード選択画面で、◁を押します。

- メッセージが表示されます。

2 カメラのパワースイッチを押して、電源を切ります。

パワースイッチ

3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

4 プリンタからUSBケーブルを抜きます。

エラーコードが表示されたときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、再度電源を入れなおしてください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。

ヒント

- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」（P.192）をご確認ください。

11その他

エラーコード表示

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを 認識できません	カードが入っていません。 または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
このカードは 使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
書き込み禁止に なっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
撮影可能枚数が 0です	カードの撮影可能枚数、または秒数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量が ありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録 されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
この画像は 再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードカバーが 開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。 フォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。

故障かな？と思ったら

●準備操作

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.30
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.24
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	―
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.30
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	―

●撮影

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.24
再生モードになっている	モードダイヤルを▶以外にしてください。	P.46
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、ϟ（フラッシュ充電中）マークの点滅が終わってから撮影してください。	P.62
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.140
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（液晶モニタが消灯した。または電池残量マークのみが点滅している。）	新しい電池を入れてください。（カードアクセスランプが点滅中は、消灯するまでお待ちください。）	P.24
液晶モニタのメモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.21
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.192

原因	こうしましょう	参照ページ
ビューファインダが点灯しない		
液晶モニタが点灯している	[◎]ボタンを押してビューファインダに切り換えてください。	P.50
液晶モニタが点灯しない		
ビューファインダが点灯している	[◎]ボタンを押して液晶モニタを消灯させてください。	P.50
ビューファインダ、または液晶モニタが見にくい		
ビューファインダの視度調節が正しくない	AFターゲットマークがはっきり見えるように調整してください。	P.34
カメラ内が結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	ー

* 結露： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

原因	こうしましょう	参照ページ
ビューファインダ、または液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ調整」でビューファインダ、または液晶モニタの明るさを調整してください。	P.156
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎるか、ビューファインダを使って撮影してください。	ー
撮影時にビューファインダ、または液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	ー
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.32
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1時間放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.24, 32
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定」タブにある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.142

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントが合わない		
被写体との距離が近すぎる	被写体との距離をはなして撮影してください。ズームがもっとも広角のときに7cmよりも近づいて撮影するときは、スーパーマクロモードに設定してください。	P.89, 90
AFが苦手な被写体である	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.82, 53
カメラ内が結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	ー
液晶モニタが消灯した		
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.30
液晶モニタを消灯して電源を切った	「モードメニュー」の「設定」タブにある「設定クリア」が「オフ」に設定されていると、電源を切る前の状態が記憶されています。 液晶モニタを点灯させてから電源を切ってください。	P.50, 142

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない		
フラッシュを閉じている	フラッシュレバーを押し上げて、フラッシュを起こしてください。	P.60
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.60
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.60
オートブラケット撮影が設定されている	オートブラケット撮影ではフラッシュはご使用になれません。 ドライブメニューで他のモードに設定してください。	P.94
ムービーモードに設定されている	ムービーモードではフラッシュはご使用になれません。🎥以外の撮影モードにしてください。	P.55
ファンクション撮影の白板・黒板モードが設定されている	ファンクション撮影の白板・黒板モードではフラッシュはご使用になれません。	P.101
スーパーマクロ撮影をしている	スーパーマクロ撮影ではフラッシュはご使用になれません。スーパーマクロを「オフ」に設定してください。	P.90
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.97
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	ー
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。新しい電池を入れてください。	P.21, 24

●画像の再生

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.82, 53
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.35
フラッシュが必要な暗い状況でフラッシュを閉じていた	フラッシュを起こしてください。シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、フラッシュを「オート」にして撮影してください。	P.60
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P.213
撮影した画像が明るすぎる		
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.60
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると周辺部が明るく写ります。露出補正をアンダー（－）側に設定してください。	P.110
ISOが高感度設定になっている	ISO感度をオートまたは50などの低感度に設定してください。	P.109
A（**M**）モードで小さい絞り値になっている	絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.73
S（**M**）モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.74

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.35
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.61
フラッシュを閉じている	フラッシュレバーを押し上げて、フラッシュを起こしてください。	P.60
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.60, 84
連写モードで撮影した	連写モードはシャッタースピードの最長時間が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.94
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると全体が暗く写ります。露出補正をオーバー（＋）側に設定してください。	P.110
A（**M**）モードで大きい絞り値になっている	絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.73
S（**M**）モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.74
室内で撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.111
撮影する構図の中に白の基準になるものがなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.60
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.111
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.35

原因	こうしましょう	参照ページ
画像のハレーション部に不自然な色がつく		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	• UV フィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでの使用をおすすめします。 • 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShop Pro など）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	—
液晶モニタ上で再生できない		
電源が入っていない	モードダイヤルを ▶ に合わせてから、パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.121
撮影モードになっている	(モニタボタン)をすばやく2回押すか、モードダイヤルを ▶ にしてください。	P.121, 122
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.192
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.133
1コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	(プロテクト)マークの付いた画像を表示して、(プロテクト)ボタンを押してプロテクトを解除してください。	P.139
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号にビデオ出力の設定を合わせてください。	P.167
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	P.133
ビューファインダ、または液晶モニタが見にくい		
ビューファインダ、または液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ調整」でビューファインダ、または液晶モニタの明るさを調節してください。	P.156
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎるか、ビューファインダを使って撮影してください。	—

●パソコンやプリンタとの接続

原因	こうしましょう	参照ページ
プリンタと接続できない		
USBケーブルでプリンタに接続したあと、液晶モニタで「PC」を選択した	カメラの電源を切って最初の手順からやりなおしてください。	P.180
パソコンでカメラが認識されない		
USBドライバがインストールできていない	Windows 98/98SEではUSBドライバのインストールが必要です。別冊の「デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書」にしたがってドライバをインストールしてください。	ー
カメラの電源が入っていない	パワースイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	P.30

メニュー一覧

● AUTO モード

トップメニュー	選択肢	参照頁
ドライブ	単写、連写、高速連写、AF連写	P.94
画質モード	SHQ 2288×1712／HQ 2288×1712／SQ1 1280×960／SQ2 640×480	P.104
日時設定		P.32
カードセットアップ	フォーマット、中止	P.153

● / / / / / / /A/S/M/Pモード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ドライブ※1	単写／連写／高速連写／AF連写／BKT※5	P.94
		ISO感度	オート／50／100／200／400	P.109
		A/S/Mモード※2	A/S/M	P.72
		1/2/3/4※3	マイモード1〜マイモード4	P.76
		フラッシュ補正	−2.0〜+2.0	P.67
		スローシンクロ	先幕効果／赤目•先幕効果／後幕効果	P.66
		ノイズリダクション※4	オフ／オン	P.118
		マルチ測光※5	オフ／オン	P.85
		デジタルズーム※6	オフ／オン	P.59
		フルタイムAF	オフ／オン	P.78
		AF方式	iESP／スポット	P.77
		スーパーマクロ※6	オフ／オン	P.90
		パノラマ※7		P.97
		合成ツーショット		P.99
		ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア／白板／黒板	P.101
		AFターゲット選択		P.79
		撮影情報表示	オフ／オン	P.155
		ヒストグラム表示※5	オフ／オン	P.119
		スチル録音	オフ／オン	P.102
		スーパーズーム※6	オフ／オン	P.58
	画　像	画質モード	TIFF／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.104
		ホワイトバランス	オート／プリセット／ワンタッチ	P.111
		WB補正	−7〜+7	P.114
		シャープネス	−5〜+5	P.115
		コントラスト	−5〜+5	P.116
		彩度	−5〜+5	P.117
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.153

次のページにつづく

● A/S/M/Pモード（つづき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	設　定	設定クリア※8	オフ／オン	P.142
		PW ON/OFF設定	オフ／1／2	P.162
		レックビュー	オフ／オン	P.157
		スリープ時間	30秒／1分／3分／5分／10分	P.158
		マイモード設定	現設定／カスタム／クリア	P.150
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.164
		ピクセルマッピング		P.165
		モニタ調整		P.156
		日時設定		P.32
		m／ft設定	m／ft	P.166
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.167
		ショートカット設定	A／B／C	P.147
		カスタムボタン設定		P.144
		ビープ音	オフ／1／2	P.159
		シャッタ音	オフ／1／2	P.160
(ドライブ)			ショートカット設定で登録した機能	
(画質モード)			ショートカット設定で登録した機能	
(ホワイトバランス)			ショートカット設定で登録した機能	

※1 モードでは選択できません。

※2 **A/S/M**モード以外では選択できません。

※3 モード以外では選択できません。

※4 モードでは選択できません。

※5 Mモードでは選択できません。

※6 モードでは選択できません。

※7 **A/S/M**モードでは選択できません。

※8 モードでは選択できません。

●モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ISO感度	オート／50／100／200／400	P.109
		フルタイムAF	オフ／オン	P.78
		スーパーマクロ	オフ／オン	P.90
		ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア	P.101
		ムービー録音	オン／オフ	P.103
	画　像	WB補正	−7～+7	P.114
		シャープネス	−5～+5	P.115
		コントラスト	−5～+5	P.116
		彩度	−5～+5	P.117
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.153
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.142
		PW ON/OFF設定	オフ／1／2	P.162
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.164
		ピクセルマッピング		P.165
		モニタ調整		P.156
		日時設定		P.32
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.167
		ビープ音	オフ／1／2	P.159
デジタルズーム			オフ／オン	P.59
画質モード			HQ／SQ	P.104
ホワイトバランス			オート／プリセット／ワンタッチ	P.111

●▶モード(静止画)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	録音	スタート	P.135
	編　集	リサイズ	640×480／320×240／中止	P.136
		トリミング	新規作成／中止	P.137
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.141, 153
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.142
		PW ON/OFF設定	オフ／1／2	P.162
		画面登録		P.163
		モニタ調整		P.156
		日時設定		P.32
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.167
		インデックス表示	4／9／16	P.125
		ビープ音	オフ／1／2	P.159
		再生音量		P.161
自動再生				P.126
情報表示				P.155
ヒストグラム表示				P.119

●▶モード(ムービー)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.141, 153
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.142
		PW ON/OFF設定	オフ／1／2	P.162
		モニタ調整		P.156
		日時設定		P.32
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.167
		インデックス表示	4／9／16	P.125
		ビープ音	オフ／1／2	P.159
		再生音量		P.161
ムービープレイ		ムービー再生	再生／コマ送り／中止	P.127
		インデックス作成	決定／再設定／中止	P.129
		ムービー編集	決定／再設定／中止	P.131
情報表示				P.155

初期設定一覧

各機能は工場出荷時には下記のように設定されています。

●撮影モード

絞り値	F2.8
シャッタースピード	1/1000
ズーム	広角
LCD	オフ
露出補正	0.0
フラッシュモード	オート発光 （S、M：スローシンクロ、🎥：発光禁止）
マクロ／スポット	オフ
AF/MF	AF
セルフタイマー／リモコン	オフ
ドライブ	単写
オートブラケット撮影	±1.0EV、3枚
ISO感度	オート（A、S、M：50）
A/S/Mモード	A
My1/2/3/4	マイモード1
フラッシュ補正	0.0
スローシンクロ	先幕効果
ノイズリダクション	オフ（夜景：オンに固定）
マルチ測光	オフ
デジタルズーム	オフ
フルタイムAF	オフ（🎥：オン）
AF方式	iESP
スーパーマクロ	オフ
パノラマ	オフ
合成ツーショット	オフ
ファンクション撮影	オフ
AFターゲット選択	中央
撮影情報表示	オフ
ヒストグラム表示	オフ

スチル録音	オフ
ムービー録音	オフ
スーパーズーム	オフ
画質モード	HQ（2288×1712、：320×240）
TIFF設定	2288×1712
SHQ設定	2288×1712
HQ設定	2288×1712
SQ1設定	1280×960　標準
SQ2設定	640×480　標準
ホワイトバランス	オート
WB補正	補正なし
シャープネス	±0
コントラスト	±0
彩度	±0
レックビュー	オン
スリープ時間	3分
ファイル名メモリー	リセット
m/ft設定	m
ショートカット設定	A：ドライブ、B：画質モード、 C：ホワイトバランス
カスタムボタン設定	AEロック
シャッタ音	1－小

●再生モード

情報表示	オフ
ヒストグラム表示	オフ
プロテクト	オフ
回転再生	0°
プリント予約	オフ
インデックス表示	9
録音	オフ
再生音量	3

●その他

設定クリア	オン
PW ON/OFF設定	1
モニタ調整	標準
日時設定	年月日 2003.01.01 00:00
ビデオ出力	NTSC
ビープ音	1－小

撮影モード別の設定可能な機能

モードでは、選択した撮影モードによって設定可能な機能は異なります。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">モード
機能</th><th rowspan="2">AUTO</th><th rowspan="2"></th><th colspan="3">A/S/M</th><th rowspan="2">P</th><th rowspan="2"></th></tr>
<tr><th>A</th><th>S</th><th>M</th></tr>
<tr><td colspan="2">A/S/Mモード設定</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">○</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ズーム</td><td colspan="7">○※1</td></tr>
<tr><td colspan="2">デジタルズーム</td><td>–</td><td colspan="6">○※1</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーズーム</td><td>–</td><td colspan="5">○※1</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AF方式</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フルタイムAF</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFターゲット選択</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マニュアル
フォーカス</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="7">フラッシュモード</td><td>オート発光</td><td colspan="3">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>赤目軽減発光</td><td colspan="3">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>強制発光</td><td>–</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕効果</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕・赤目効果</td><td>–</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>後幕効果</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>発光禁止</td><td colspan="7">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スローシンクロ設定</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スポット測光</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マルチ測光</td><td>–</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEロック</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFロック</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マクロ撮影</td><td colspan="7">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーマクロ撮影</td><td>–</td><td colspan="6">○※1</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフタイマー撮影</td><td colspan="7">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">連写・高速連写・AF
連写</td><td colspan="6">○※2</td><td>–</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">モード
機能</th><th rowspan="2">AUTO</th><th rowspan="2"></th><th colspan="3">A/S/M</th><th rowspan="2">P</th><th rowspan="2"></th></tr>
<tr><th>A</th><th>S</th><th>M</th></tr>
<tr><td colspan="2">オートブラケット撮影</td><td>–</td><td colspan="3">○※2</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">パノラマ撮影</td><td>–</td><td>○※1</td><td colspan="3">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">合成ツーショット</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ファンクション撮影</td><td>モノクロ</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>セピア</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td>白板</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>黒板</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スチル録音</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ムービー録音</td><td colspan="6">–</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質モード</td><td colspan="7">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ISO感度</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td>–</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">WB補正</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャープネス</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">コントラスト</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">彩度</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノイズリダクション</td><td colspan="2">–</td><td colspan="4">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">撮影情報表示</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヒストグラム表示</td><td>–</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">設定クリア</td><td>–</td><td colspan="6">○※3</td></tr>
<tr><td colspan="2">PW ON/OFF設定</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">レックビュー</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スリープ時間</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">マイモード設定</td><td>–</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ファイル名メモリー</td><td>–</td><td colspan="6">○</td></tr>
</table>

モード / 機能	AUTO	シーン	A	S	M	P	動画
ピクセルマッピング	ー	○					
モニタ調整	ー	○					
日時設定	○						
m/ft設定	ー	○					ー
ビデオ出力	ー	○					
ショートカット設定	ー	○					ー
カスタムボタン設定	ー	○					ー
ビープ音	ー	○					
シャッタ音	ー	○					ー

○：設定可能　ー：設定不可

※1 モードをのぞく
※2 モードをのぞく
※3 モードをのぞく

カメラのお手入れと保管

●使用後のカメラの取り扱い

電源を切り、レンズキャップをつけてください。
長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出しておいてください。

●カメラのお手入れ

1 カメラの電源を切ります。（☞ P.30）

2 電池を取り出します（☞ P.24）。（AC アダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。）

3 カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとビューファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード

→ 乾いた柔らかい布で拭きます。

●カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池を取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社修理センター、またはサービスステーションまでお問い合わせください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、TIFF（非圧縮）、JPEG（DCF準拠）
対応規格	：Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching II 、PictBridge
静止画音声	：Waveフォーマット準拠
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：xDピクチャーカード（16-512MB）
画像サイズ	：3200×2400ピクセル（プリント拡大 SHQ／HQ） 2288×1712ピクセル（TIFF／SHQ／HQ） 2288×1520ピクセル（3:2 TIFF／SHQ／HQ） 2048×1536ピクセル（TIFF／SQ1） 1600×1200ピクセル（TIFF／SQ1） 1280×960ピクセル （TIFF／SQ1） 1024×768ピクセル （TIFF／SQ2） 640 ×480ピクセル （TIFF／SQ2）
記録コマ数	
16MBカード使用時（音声なし）	：約1枚 （TIFF：2288×1712） 約5枚 （SHQ：2288×1712） 約16枚 （HQ ：2288×1712） 約49枚 （SQ1：1280×960標準） 約165枚（SQ2：640×480標準）
カメラ部有効画素数	：400万画素
レンズ	：オリンパスレンズ6.3～63mm、F2.8～3.7、7群11枚 （35mmフィルム換算38～380mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
絞り	：F2.8～8.0
シャッター	：16～1/1000秒
撮影範囲	：0.6m～∞（W）、2m～∞（T）（通常） 0.07m～∞（W）、1.2m～∞（T）（マクロ撮影時）
ビューファインダ	：0.44型（インチ）TFTカラー液晶、180000画素
液晶モニタ	：1.5型（インチ）TFTカラー液晶、114000画素
オートフォーカス	：TTL方式AF コントラスト検出方式

コネクタ	：DC入力端子、USB端子、A/V出力端子
自動カレンダー機能	：2000～2099年の範囲で自動修正
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源	：リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個 あるいは単３アルカリ電池／リチウム電池／ニッケル水素電池／ニッカド電池を4本使用 または専用ACアダプタ 単３マンガン電池は使用できません。
大きさ	：幅107.5mm×高さ66mm×厚さ68mm （突起部を除く）
質量	：305g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640×480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640×480のときではモニタ全体に表示されますが、1024×768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

フラッシュブラケット
フラッシュを撮影レンズからはなして使うときに用いる器具。被写体の影のでき方を変えることができます。フラッシュケーブルと併せて使います。

リングフラッシュ
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。接写（近接撮影）などに使用します。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度と絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラが自動的に露出を決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQ1／SQ2に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）液晶
薄膜で作られたトランジスタを利用したカラー液晶モニタ。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TTL（through-the taking-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

英数／記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OLYMPUS

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● **電話等でのご相談窓口**

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　　　　　9：30～21：00
土・日・祝日　10：00～18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● **修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先**

TEL 0266-26-0330　　FAX 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京 〒101-0052　千代田区神田小川町１の３の１　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）　Tel.03（3292）3403
札　幌 〒060-0034　札幌市中央区北４条東１の２の３　札幌フコク生命ビル　Tel.011（231）2320
仙　台 〒981-3133　仙台市泉区泉中央１の13の４　泉エクセルビル　Tel.022（218）8421
名古屋 〒460-0003　名古屋市中区錦２の19の25　日本生命広小路ビル　Tel.052（201）9571
大　阪 〒542-0081　大阪市中央区南船場２の12の26　オリンパス大阪センター　Tel.06（6252）6995
広　島 〒730-0013　広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第２ビル　Tel.082（228）3821
福　岡 〒810-0004　福岡市中央区渡辺通３の６の11　福岡フコク生命ビル　Tel.092（761）4466

※ 土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

1AG6P1P1685--　　VT657301